

SSKA 頸 損

KEISON No.129

目 次

特集

人工呼吸器シンポジウムを開催して	1
人工呼吸器を使用して自由に生きるために	5
車椅子 de アメリカ留学レポート	7
障害者バンド「Dans Cur(ダンクール)」	9
福島県応援ツアーレポート	11
「アクセス関西ネットワーク集会」	15
20年ぶりの飛行機でいく「リハ工学カンファレンス in さっぽろ」	16
〔活発な地域間交流〕	
・第10回4都県合同交流会 宇都宮にて	17
・東京・神奈川合同交流会 横浜にて	19
・京都・大阪合同交流会 京都の観光地巡り	21
・第14回四国頸損の集い2019を高知で開催しました	23
お役立ち!?	24
2019年国立リハセンター並木祭	26
頸損解体新書の発行へ向けて準備しています	27
全国頸損事務局からのお知らせ	28
学生支援、書籍紹介	29
10.30 UD タクシー 全国一斉乗車行動!	33
報道ピックアップ	34
2020年度「全国頸髄損傷者連絡会・総会 岐阜大会」のご案内	38
年間予定	39
本部・支部連絡窓口	40
編集部のページ 編集後記	41

報告：人工呼吸器シンポジウムを開催して

兵庫頸髄損傷者連絡会 米田 進一

1. はじめに

去る11月2日に神戸市勤労会館にて、「人工呼吸器を使用して自由に生きるために」ー人工呼吸器ユーザーが求めること、支援者に求められることーというタイトルの下、各地方に住む人工呼吸器(以下、呼吸器)ユーザーが集まりシンポジウムが行われました。前回2007年に兵庫で開催された「市民公開講座」から12年が経ち、私自身12年前と比較し、生活の変化や、現在どのような活動をしているのか、今抱えている問題や課題を解決するにはどうしたらよいかを報告し、支援者とともに考えました。シンポジウム第1部の様子を報告致します。

2. 概要

日時：11月2日(土) 第1部 10:00~12:10
第2部 13:30~16:30

会場：神戸市勤労会館 大ホール 7F

全国で呼吸器を使って在宅で暮らす頸髄損傷者をはじめとする肢体不自由者に幅広く呼びかけ、実際にどのような暮らしをしているのか、自己実現していること、自身が生活する上で問題となること、どのように暮らし、どのような支援があれば自由な意思を守ることができるのかを聞き、課題解決のために求める要望を一緒になって考え学びます。

3. 当事者の一員として



第1部で報告する私

前回から振り返ると、当時は外出する意欲が無か

ったので、社会参加ができるとは思っていませんでした。というのも、呼吸器を付けて外出すると危ないという恐れや、人に見られる事自体が嫌だったので、余程の理由が無い限り外出する事を避けていました。しかし、数名の呼吸器ユーザーが集まり社会参加をしていることを知った影響から、自分は遅れている存在だと認識しました。当時会員だった呼吸器ユーザーから「社会参加するべきだ」と背中を押された事から、自分も積極的に行こうと思いはじめました。同年の暮れ、同じ会の先輩から「大分旅行に行かないか？」と誘われ、「介助者は学生4名が付くので、私達もサポートするから心配ないよ」と言われていましたが、初めての旅行ですから大いに不安が有り、遠方に行けるとは到底思えませんでした。無事に一泊二日の旅行を終え、翌年は全国総会・大阪大会に出席しました。大会では呼吸器ユーザーが司会やパネリストを行い、海外から横隔膜ペーサーを付けたユーザーをゲストに招き、呼吸器ユーザーの存在を広く世間に知ってもらえる場となりました。私自身もパネリストをする事で1年前よりは少し成長したと思います。海外からゲストを招いたことにより、いつか飛行機に乗りたいという思いが芽生えましたが、実現には至りませんでした。

その後、様々な行事にも参加するようになり、地方の呼吸器ユーザーと交流も出来、多くの呼吸器ユーザーと繋がる事が出来ました。

旅行に関しては制約もあり、呼吸器ユーザーならではの問題も多くあります。遠方への移動に問題なのはバッテリーの持続時間です。飛行機を利用するには医師の診断書が必要となります。機械によっては気圧に耐えられないものや、機内に持ち込む事の出来ないバッテリーも多く搭乗が出来ません。

長時間の移動の場合は、バッテリーの持続時間を逆算して予備のバッテリーを持っていかなければならず、人によっては吸引器も持ち込む必要もあり、荷物が多くなります。呼吸器ユーザーの旅行の準備が大変な事は、あまり知られていないのが現状です。

それでも 10 年越しに海外旅行まで実現出来たのは私なりに大きな進歩だと思っています。

生活面では、重度訪問介護サービスを利用しながら家族と同居しています。私が住む地域では 24 時間利用出来る環境では無い為、納得のいく支援は受けられていません。今抱えている課題の一つに、支援者の確保が難しいことがあります。呼吸器を使用しているということが、大きな責任がかかってくると捉えられ、サービス利用を敬遠されがちになります。私が目標としているのは、自立生活です。未だに実現出来ていません。私がこれから先、自己実現を果たしていく為には、多くの支援を必要とします。全呼吸器ユーザーが自分らしく生きていく為には、障害に対して理解を深め、意思決定の自立に多くの支援が必要だということです。誰もが安心して暮らせる社会にするため、共に支えて頂ければ幸いです。

4. 土岐先生（ドクター）の報告

私の主治医でもある土岐明子先生は、私が入院した時に気管切開から離脱させてくださった恩人です。日本での人工呼吸器における非侵襲的陽圧換気療法（以下、NPPV 療法）の先駆者です。私を含む今回のパネリストである 3 名が先生の患者です。先生からは、どのような損傷レベルで呼吸器ユーザーとなるのか、排痰の方法や舌咽頭呼吸についてのお話がありました。医師になって、現在の呼吸器ユーザーに気管切開離脱を促す理由も話してくださいました。



土岐先生の報告の様子

NPPV 療法とは「Noninvasive Positive Pressure Ventilation）の略です。慢性呼吸不全患

者のうち、低酸素血症に加えて慢性的に二酸化炭素の蓄積を伴ったⅡ型呼吸不全には、継続的な補助換気（人工呼吸療法）が必要となる場合があります。NPPV 療法は、気管切開することなくマスクやマウスピースを介して換気を行う治療法で、1998 年に在宅における健康保険が適用となりました。患者さんにやさしい人工呼吸療法として、NPPV 療法は注目されています。（TEIJIN MEDICAL WEB ページから引用）

日本では先生を含め 2 名のドクターが NPPV 療法を先駆的に実践されています。気管切開から離脱をして、マウスピースや鼻マスクを用いた呼吸療法にすることで、痰吸引のリスクが大幅に軽減されます。先進国である海外では 30 年程前から取り組まれている呼吸療法ですが、日本ではまだまだ知られておらず必要性も理解されていません。現状では呼吸系に疾患のある患者の大半は、気管切開による呼吸管理になるという事でした。気管切開で在宅生活に戻るといことは、痰吸引というリスクの高い医療的ケアを一生続けることになります。

気管切開をする事によって声が出なくなるかもしれないという不安と、誤嚥による肺炎のリスクもある為、出来れば気管切開をしたくないのが本音です。私の様に気管切開以外の選択肢が提示されたことは稀だったように思います。現在は NPPV 療法による呼吸管理が確立してきたため、この療法を選ぶ方が増えているそうです。

5. 鼎談



3 人での鼎談の様子

ここから宮野さんが加わり、3 人で鼎談が始まりました。話で中心となったのは NPPV 療法の話でした。

世間の呼吸器のイメージは良いものではなく、呼吸が出来ない事で多くの制約が掛かります。どうしてもマイナスのイメージが付きまといまいます。「〇〇してはいけない」、「そんな事をさせて大丈夫なの？」など。宮野さんも当初はマイナスのイメージで捉えていたそうです。私と出会ってからは、呼吸器＝メガネ感覚になってきたそうです。私たちは決して気管切開を否定しているわけではありません。気管切開している人は医療的なケアがより多くなる為、NPPV療法と違ってリスクが多いのではないかと考えています。「NPPV療法は世界では主流なのですか？」との質問に対し、先生は「主流ではありません。気管切開のほうが多いです。でもNPPV療法は凄く古くから行われています。」と仰っていました。

先生はカナダのリハビリテーション病院で脊髄損傷者の呼吸管理やNPPV療法を学ばれたそうです。アメリカのジョン・R・バック先生がNPPV療法についての文献を書かれたのが1990年なので約30年近く前、実際はそれよりも前からやっていたやり方だそうです。アジア、ヨーロッパ、アメリカ、カナダといった色々な国の医師が取り入れている療法です。日本では気管切開での呼吸器管理が主流で、選択肢を増やすためにもこんな方法もあるというのを挙げていかないといけないと話されていました。

先生は、カナダでNPPV療法を学ばれてから今に至るまでの経緯もお話してくださいました。医師になって2年目に初めて呼吸器の患者さん受け持たれたそうです。その患者さんは気管切開で通常の呼吸器を使っていたようです。年齢は60代後半で、気管切開により、肺炎、嚥下機能障害等本当に色々なトラブルがあったそうです。その方を看取った後に、小学校2年生の時に怪我をして呼吸器になった方を受け持たれたのですが、もう同じトラブルは起こしたくないという思いがあったそうです。最初はカフ無しカテーテルの呼吸器を使用したところ、声を出すことができ、痰吸引の回数も少なくなったそうです。日本でNPPV療法を実践されている方は、皆バック先生から学んでおられるそうで、北海道の八雲病院に勤められておられる石川悠加先生もそのお一人だそうです。九州の脊損センターでもNPPV療法は受けら

れると聞きました。

先生は2005年からNPPV療法を始められたのですが、たまたまその第1号となったのが私です。そして私以降に先生が携わった患者さんで、NPPV療法への移行可能な人は皆、移行されているそうです。

長年気管切開をしている人でも、NPPV療法に移行出来るのか？率直に聞いてみました。少ないけれどもいるということでした。先生曰く、気管切開での呼吸器管理に慣れて生活している人が多いため、NPPV療法に切り替える際には、細心の注意が必要とのこと。一度開いたものを閉じるのは困難なこともある為、早い段階でNPPV療法にする方が良いとの事でした。

気管切開すると声が出なくなるのか？との質問には、声が出ないという訳ではなく、声を出す方法が幾つかあるということでした。カフを萎ませる方法、特殊な器具を使ったりする事によって声が出せるそうです。気管切開を体験された方は理解出来ると思いますが、声が出せない、文字盤を使っても相手に伝わらないことは、常にイライラして辛い思いになります。私も「あいうえお」という言葉を発するだけでも、相当疲れていた事を思い出しました。普通に声を出すのが、大変だったというのが当時の記憶として残っています。NPPV療法だと自由に話せ、痰吸引がほぼ無くなった事で大変楽になりました。

カフアシストについても関心が高かったです。頸損者は風邪を引くとすぐに重症化します。排痰するチカラが弱いからです。胸を押すという肺痰方法がありますが非常に苦しいのです。医療保険ではカフアシストは在宅で人工呼吸器を使っている神経筋疾患等の患者しか使えないという条件がある為、病院でカフアシストを置いているところは少ないです。

睡眠時無呼吸症候群と診断された方も使えるのか？という問いには、一部では呼吸器と見なされる場合があります使用が可能だということでした。

アンビューバッグという緊急時に手動で送気し人工的に換気を行う器具の話も出ました。実際どんな感じで使用するのか、実演しました。災害等で呼吸器が止まっても、呼吸が一時的に確保できます。私は外出時には必ず携帯しています。私の呼吸器は一

分間に12回空気を送り出す設定になっています。呼吸のタイミングに合わせて押しますが、個人差があります。10秒に一回程度。酸素を早く送って欲しい人であれば、5秒に一回という感覚です。今まで幸いな事に呼吸器が止まってしまうトラブルに見舞われたことはありませんが、万が一呼吸器が止まればアンビューバッグを押してもらわなければいけません。緊急時の対策として必要な行為なのです。医療行為ではないかという議論になりそうですが、自発呼吸が困難な私達には絶対的に必要な行為なのです。

私の電動車椅子にはモーターから電源が取れる様に、コンセントを繋げる工夫をしています。外出時は勿論、災害時であってもいつでも電源を確保する為に色々な工夫をしています。対策は必要だと常に思い、これからの生活にも取り組みたいと思います。



和やかな雰囲気での鼎談①



和やかな雰囲気での鼎談②

6. 最後に

今回のシンポジウムを開催したことは大変価値があったと思います。会員をはじめ、支援者、協賛頂いた企業の皆様、全ての方々が人工呼吸器を使用することが特別ではないということがご理解いただけたと思います。ただし、社会的にはまだ人工呼吸器はマイナスのイメージに捉えられることが多いです。できる限りこのイメージを変える活動を続けていきたいと思っています。ご参加いただきました皆様ありがとうございました。



おまけです（笑）

「人工呼吸器を使用して自由に生きるために」

－人工呼吸器ユーザーが求めること、支援者に求められること－

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

11月2日(土) 神戸市勤労会館・大ホールにおいて人工呼吸器シンポジウム「人工呼吸器を使用して自由に生きるために」－人工呼吸器ユーザーが求めること、支援者に求められること－を開催しましたので報告します。

シンポジウムの趣旨

当会では、10数年前より人工呼吸器ユーザーの自立生活が実現するための啓発に取り組んできました。10数年前には数えるほどしかいなかった人工呼吸器ユーザーの会員も、全国頸髄損傷者連絡会には複数名の人工呼吸器ユーザーが会員登録しており、運営に携わる者まで出てきています。社会全体を見ても、近年では地域で自立した生活を送る高位頸髄損傷や難病の人工呼吸器ユーザーは増え、生活に多くの課題を抱えながらも社会に自身の役割を見出し、心豊かな生活を目指そうと奮励努力しています。しかし、本当に当たり前「自由な意思」の元、数多くの選択肢がある豊かな生活が送れる時代になったのでしょうか？残念ながら「人工呼吸器は生命維持装置」というイメージは根強く存在しています。在宅生活でも、身体的なケアサービスは受けられても、専門的な知識や技術を必要とする医療的なケアサービスが受けられないという問題があり、日常生活がその高い壁に阻まれ、意思表示すら我慢を強いられている人工呼吸器ユーザーは少なくありません。

本シンポジウムは、全国で人工呼吸器を使って在宅で暮らす頸髄損傷者をはじめとする肢体不自由者に幅広く呼びかけ、自身が生活する上で問題となることや課題解決のために求める要望を聞き、どのように暮らしを守り、どのような支援があれば自由な意思を守ることができるのかを参加された方たちと一緒に考えることを目的に開催しました。

第1部 鼎談

第1部では人工呼吸器ユーザー、ドクターを交えた鼎談として兵庫頸髄損傷者連絡会の米田進一氏と大阪急性期・総合医療センターの土岐明子医師と私とで鼎談を行いました。最初に米田氏から自身の障害の経緯、どのように人生をリカバリーしたか、人工呼吸器を使用して暮らすことに対する思いを発表してもらいました。12年前に人工呼吸器使用者の自立生活を実現することを目的としたシンポジウムを開催した時には、まだ社会参加し始めたばかりで発言に自信がなく、遠慮がちであった米田さんが、「人工呼吸器使用者は決して特別な存在ではない」と断言する彼の姿に12年間での成長が伺えました。

土岐医師からは、視力が低下した人は眼鏡をかける、呼吸がしづらい人は人工呼吸器を使用するという風に、低下した機能を補う道具に過ぎないという非常にシンプルな考え方が示されました。人工呼吸器は特別なものではなく、人生を前に進めていく道具であるというわかりやすいお話でした。

2人とも人工呼吸器に対する社会的なイメージに問題があることを指摘されていました。

第2部 人工呼吸器ユーザー報告

第2部では、兵庫頸髄損傷者連絡会・坂上正司氏のコーディネートのもと、4名の県外から招いた人工呼吸器ユーザーの報告とパネルディスカッションを行いました。高知県在住の村田一平さんからは、ひとり暮らしに至るまで、現在のひとり暮らしの様子、活動の様子などをお話いただきました。病院から施設、施設から実家、そしてひとり暮らしをするまでの15年間の心境についてのお話が興味深かったです。手探りで様々なことを模索し、時には壁にぶつかり、そして自由を手に入れて「本当に今の生活が良い」と熱く語るその言葉に共感しました。

今年結婚したという報告には会場が大いに沸きました。「本当に幸せです」という言葉には、もはや人工呼吸器ユーザーであるというイメージなどは存在しておらず、これが本当にあるべき姿だと感じました。

東京都在住の木下昌さんからは、怪我をしてから現在に至るまで、大学受験から進学そして司法試験へのチャレンジの様子をお話いただきました。特別な理由がなく大学に進学したこと、大学に行くことが当たり前だと思っていたこと、法学部を選んだのは受験科目の都合であったことを聞けば、それは正に障害がない者と同じ考えであり、やはり人工呼吸器ユーザーであるイメージが存在していないことを気づかされます。就労することも当たり前視野に入っており、現状の重度訪問介護サービスでは就労時にサービスが受けられないことを危惧されていました。「障害者も競争できる社会に」と強く訴えられている姿が大変印象的でした。

大阪府在住の吉田憲司さんからは、持続可能な在宅生活の在り方を模索している様子を報告いただきました。24時間の介護の必要性を訴えても、行政はなかなかそれを認めず、介護者を確保することが難しい現状で誰もが疲弊していつける切実な様子が語られました。療養型の施設を増やしたり、病院のベッド数を増やすよりも在宅生活の方がより現実的で有力な選択肢であることを主張されていました。充実した人生の一環として最期まで自分の意志を貫ける環境とはいかなるものか、社会的議論の広がり期待していると締めくくられていました。

滋賀県在住の松江里美さんからは、大学に復学した様子、現在就労している様子などをお話いただきました。大学1年生の時に交通事故で頸髄損傷になったけれど、周りのサポートもあって復学されたとのことでした。本人は「私はそんなに頑張っていない」と謙遜されていましたが、復学してから3年間学校に通って卒業されたことを考えると、本人の努力は相当なものであったと思います。NPPV療法になって良かったことは何ですか？と質問した答えが、「ネックのある服が着られるようになった」というおしゃれを意識されていることに女性らしさを感じました。現在は市役所に臨時職員として勤めておら

れ、今後の活躍が期待されることです。なによりも受傷から6年で就労まで果たしていることが、12年前から大きく社会が変化していったことを物語っています。彼女のように人工呼吸器ユーザーであっても社会的な活躍ができる人たちが増えることを期待してやみません。

最後に

人工呼吸器は「呼吸ができなくなった」という風に見られがちで、「できない」という捉え方が「してはいけない」「控えなければいけない」という制約めいた考え方を生み出してしまいます。みなさんも何かをしようとしたとき「それは無理じゃないか」と言われた経験があるのではないのでしょうか？そういうイメージや考え方がもう古い・間違っていることを、今回のシンポジウムで登壇してくださったみなさんからの報告が証明してくれていると思います。

私自身はこのシンポジウムに「権利の保障」がテーマであったとも感じています。障害者権利条約にもある「他の者との平等」が保障されてこそ誰もが暮らしやすい社会が実現するということです。他の者とは「障害のない人たち」です。障害のない人たちと同じことができこそ、誰もが心豊かに暮らせる社会になるはずです。「誰もが」とは高齢者も子供も障害者も含めたあらゆる人のことを指します。人工呼吸器を使用しているからといって特別視する必要はありません。みなでともに楽しく暮らせる社会を実現するためにこれからも活動を続けていきたいと思います。



パネルディスカッションの様子

車椅子 de アメリカ留学レポート

東京頸髄損傷者連絡会 戸石 薫

1、皆さん初めまして、戸石 薫と申します。

僕は大学3年の時に船で世界一周に挑戦し、途中で事故に遭って頸髄を損傷しました。

4年間、福岡や別府でリハビリをし、もう一度海外旅行がしたいと思い、その後2年間働いてお金を貯めました。

今年の6月～8月の半ばまでの約2ヶ月半の海外留学に挑戦してきました。

場所はカルフォルニア州のオレンジカウンティという所です。ロサンゼルスから車で1時間程の場所で、そこまで都会ではないのですが山やキレイな海に囲まれた素敵な街でした。

日本にいる時に、元介護士の方がいるホストファミリーを頼んでいたのが、必要な時は助けてもらい、日常生活をおくることが出来ました。

平日は語学学校に通い、土日はほとんど一人で旅をしていました。

特にメキシコに行ったときは、バスや長距離列車の乗り継ぎ、初めての陸路で国境越え、マフィアが支配する街テファナ等、とても刺激がありましたが、いやー心臓が縮みました。



メキシコの列車で同じだったおばあちゃん

アメリカのいい所は、やっぱりどこもバリアフリーな所ですね。

もちろん法律が関係してるのですが、僕が行った観光地やレストラン、ショッピングモールにテーマパーク、パラグライダーのアクティビティ等、車椅子でも思いっきり楽しめました。

2、Go to Angels!

自分の住んでいた場所から車で20分ぐらいで大谷選手のいるエンゼルス球場があったので、そこにも行ってきました！

エンゼルススタジアムは思ったよりもでかく、1階～3階に続く広いスロープがありました。

車いす席があるというよりは、イスのないスペースが2階からぐるっと一周あり、車いすの人が500人で押し寄せても余裕で入ると思います。試合を見ながらピザを11ドルで買って、エンゼルスの帽子を30ドルで買いました。(ちなみに帽子は近所のスーパーで買えば10ドルですみました)

メジャーリーグは音楽がなく、いいプレーには拍手を送りいい選手を応援しとにかく自由で笑顔とリラックスの場所でした。生の大谷選手はやはり、スラッとしていてキャプテン翼のような、何頭身だよ、と言いたくなる日本人離れした体格でした。

チームは9-3で負けましたがいい思い出です。



3、無理と言わないアメリカの絶景アクティビティ

上記にさらっと書きましたが、僕はアメリカでイス付きのパラグライダーに挑戦してきました！

「ロサンゼルス アクティビティ」とネットで調べて出てきた。海の上や雲の上を飛び回る、バイクとパラグライダーが合体したような乗り物。

「これは絶対乗りたい！」と思い、即英語でメールし、自分の身体の事を伝えました。

返ってきたメールは「たぶん、大丈夫だよ！」と、

軽い。

見た感じ危険なので断れるかも知れないと思ったのですが、さすがアメリカ、楽勝みたいです。当日僕は、一般の2倍のシートベルトを締めてもらい、絶対に落ちない事を確認し、空港の端のエリアから羽のついたバイクに乗り、猛スピードで空に駆け上がりました。その瞬間「正直、僕の人生は今日で終わった」と思いました。



だって体幹のない僕がバイクに乗り、空を飛んでいるんですよ。

どうなるか皆さんと同じ事を思いました！

結果から言えば、無事に離陸出来ました。

雲の上と下を自由自在に行き来し、窓ガラスのない空の上、そこから見える太陽は、今までのどんな景色よりも絶景でした。

4、留学を終えて

アメリカから帰国して、改めて日本料理の美味しさに気づき、日本のトイレと安全さと街に溢れるテクノロジーは世界一なんじゃないかと思う一方、アメリカのバリアフリーと比べると、まだまだ日本は設備や人の意識に対してアプローチを続けて行かなくてはならないと思いました。

現在、僕は東京でユニバーサルデザインのカルチャースクールを起業しようと思っています。車椅子の方も、どなたでも通えて、語学だったり、アートだったり、プログラミング等を、趣味の一環として学べる場所です。

アメリカでは街中に車椅子の人も大勢いて、自分も障害の事を忘れてましたが、日本では、それを感じてしまう場面があるので、ユニバーサルデザインで誰でも一緒に学ぶ環境が出来れば、少しずつ日本もインクルーシブな社会になって行くのかなと思いました。

障害者バンド「Dans Cur (ダンクール)」

東京頸髄損傷者連絡会 柴崎 愛

私は現在、障害を持つ仲間とともにバンド活動をしています。バンド名は Dans Cur (ダンクール)。フランス語で「ハートの中」という意味です。可愛らしいイメージとは裏腹に、メンバー行きつけの居酒屋名をフランス語にしてみたただけなのだとか(笑)。ヴォーカルの私は頸損であり楽器隊は視覚障害者という、障害者のみで構成された珍しいバンドです。メンバーとの出会いは、国立障害者リハビリテーションセンターでした。ほぼ全員が視覚障害者で構成されている軽音楽部でしたが、見学に行ってもそのまま入部(笑)。障害は違っても、音楽という共通の趣味があったから自然に溶け込むことができたのだと思います。施設はバリアフリーなので、不便を感じることなく部の一員として楽しく過ごしていました。

今は全員が寮を出て地域生活に移行し、仕事をしながらの活動です。施設と違って、車いすで入れる練習スタジオやライブ会場を探すところから始まりました。練習はだいたい月に1回やっていて、練習の後はいつも飲み会!音楽の話から日常の何気ない話まで、話題が尽きません。気の合うメンバーと飲みながらワイワイしゃべる時間も楽しみのひとつです。

2016年5月に、北浦和にあるライブハウス「Ayers (エアーズ)」にて初ライブを行いました。会場は地下1階でエレベーターがあり、楽屋からステージへもスロープになっていて車いすでも大丈夫。施設にいた頃は講堂でライブをしていたので、ライブ

ハウスとは全然雰囲気が違います。家族や親しい友人だけを呼んだ身内ライブでしたが、ものすごく緊張しました。でも、何とも言えない達成感というか、ライブ特有の高揚感というか、そういうものが味わえて、またやりたいなと思えるライブでした。



2016年7月に、ウェディングパーティーを開きまして(入籍は2015年1月でした)、余興としてバンド演奏をさせてもらうことになりました。余興って普通は友人にやってもらうものじゃない?花嫁自身がウェディングドレス姿で歌うのってどうなの?という疑問もありましたが、「一番好きなことやっている姿をみんなに見てもらいたいよ」という旦那さんの後押しもあってライブを決行しました。自分たちで楽器レンタル業者を手配し、ドラムセットやアンプ



類を持ち込んでの演奏という初めてのスタイルで、いい経験になりました。パーティーの参加者は私の友人が多かったこともあり、みんなノリノリで聴いてくださって嬉しかったです。

2017年10月にはライブハウス「Ayers」での2度目のライブを行いました。10月末だったため、ハロウィンライブと題して仮装しています。ウェディングパーティーに来ていた人がライブにも来てくれるようになり、お客さんが増えました！



失明する前にアパレル業界で働いていたメンバーが、「視覚障害者は見られることに疎くなりがちだから、自分たちのライブではファッション性を意識したい。」と言って。1回目のライブでは全員がボーダー柄の服を取り入れていたり、2回目は仮装してみたりしています。ちょっとした工夫なのですが、障害の特性ゆえに疎かになりがち部分意識するのは大切なことなのではないかと感じます。

ハロウィンライブの後にメンバーが1人休止して、新しく1人加入しました。リハビリセンターで同時期に過ごした人ではなく、私たちが退所してから入所した人です。施設にいる間だけ音楽活動ができればいいという人もいますが、地域生活になっても

音楽活動を続けたい人もいるでしょう。音楽への熱意がある人には、声かけしていただければいいと考えています。

病気が理由で全盲になったり弱視になったりした人もいますので、体調不良者が多い時は練習を休みにせざるを得ません。もちろん、私の体調がすぐれない時もあります。ハロウィンライブ以降はなかなかライブの目途が立たずにいますが、これからもダンクールは活動を続けていきます！

私たちのバンドは、全員が障害者ということもあり、「障害を持っていても趣味を楽しみながら生きている人もいるんだよ♪」と発信していきたいと思っています。ライブ動画をYouTubeにアップしたり、活動ブログを運営したりしています。皆さんに視聴していただけたら嬉しいです。

★Dans Cur (ダンクール) のブログ→

<http://danscur.jugem.jp/>

★ライブ動画一覧→

<https://www.youtube.com/channel/UCpJyQjRQs2nx3Cf0FAwrXLg>

(ダンクール バンド で動画検索してみてください♪)

※以前に、兵庫頸損の会報誌やはがき通信にて掲載していただいた内容に加筆修正しています。



福島県応援ツアーレポート

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

本格的な暑さに突入しようとしていた7月下旬に「福島県応援ツアー」を行いました。その様子を報告しますので、最後までおつき合ください。

ツアーに至る経緯

2011年3月11日14時46分、宮城県石巻市の牡鹿半島の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が東北地方を襲いました。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、東日本大震災)と命名されたその地震は、私の記憶にある津波による被害としては、北海道の奥尻島を襲った北海道南西沖地震の被害を大きく上回る被害と経済的損失を及ぼしたものでした。

私は、兵庫県三田市にあるNPOで重度障害者の自立支援・権利擁護活動を行っていますが、NPOとしても東日本大震災の発生直後から、募金活動を中心に救援活動を行い、毎年、被災地の名産品などを取り寄せ、「食」を通しての応援も行うなど、微力ながら復興のお手伝いを行ってきました。

私が特に応援しているのが福島県です。他県を応援しないということではなく、福島県は福島第一原子力発電所を有する県であり、他の被災した県に比べても、特異な被害を被った県であると考えているからです。2014年に南相馬市の仮設住宅に4都県合同交流会で訪れ、被災地を目にしてからは「もっと自分にできることはないだろうか?」とより強く考えるようになりました。

そんな私に声をかけてくださったのが福島県伊達市在住の頸損者であり、「障がい者の旅行を考える会」代表の佐藤孝浩さん。「福島県はフルーツも有名なんですよ。宮野さんがさくらんぼや桃を食べに来てくれて宣伝してくれると、それだけで応援になるんだけどなあ。」と言われたら行かないわけにはいきません。昨年NPOから電動車椅子ユーザー4名、スタッフ8名の総勢12名で福島市を訪れ、ふくしまバリアフリーツアーセンターと佐藤さんご協力の下、

震災を経験された障害者団体を訪ねて被災時の話を聞き、風評被害を乗り越えた観光地や果樹園を訪れ、「福島県応援ツアー」(当初は福島県復興支援ツアーとして計画していたが、復興という重苦しい局面は脱してきたので、さらに元気になっていく応援をしよう!という理由で応援ツアーに名称を変更しました。)を実施し、情報収集・情報発信を行いました。

「さくらんぼ狩りが良かったです。」ツアーの最終日に感想を述べたところ、「福島は桃も美味しいんですよ。でも桃の季節は7月後半になるので頸損には暑過ぎます。絶対来ようなんて思わないでくださいね。」と佐藤さん。全てを“フリ”だと捉える関西人には「来い!」としか聞こえなかったため、今年の初めに「桃食べに行きます!」と伝えて企画されたのがこの「福島県応援ツアー」であり、今回は第2弾となるわけです。

ツアーまでの準備

「被災地を視察したい。できれば原発の近くまで行くことはできないか?」率直な思いを佐藤さんにぶつけました。最近では、メディアではほとんど福島県の様子が伝えられなくなりましたが(関西ではそれを強く感じる)、原発事故が及ぼした影響が収束したとはとても思えません。現に収束していません。阪神淡路大震災を経験した県民として、まだ元の生活に戻れない人たちがいるにもかかわらず、人の記憶から震災が風化していくことに懸念を抱いています。痛手は引きずらなくてもいいが、決して忘れてはならない。現状を知ってもらい、多くの方に自分にできる範囲で福島県を応援してもらいたいと考えていました。実際に現地へ赴くことが困難なことはわかっていましたが、無理を承知で要望しました。

いつもなら「任せてください」と即答して下さる顔も心もデカイ佐藤さんが「ちょっと時間をください。いろいろ当たってみます。」と即答を避けたことに、この要望の困難さを感じ取れました。実際に

佐藤さんとは何度も電話で話し、打ち合わせを入念に行いました。最後まで難航したのが、被災地で震災時のことを話してくださる方の調整でした。私としては無理を言っている手前心苦しかったので「被災地を見るだけで構いませんよ。」と伝えたのですが、「宮野さんがせっかく来るのに、しっかり情報を伝えてくれる語り部さんを用意できなくてどうすんですか！宮野さんに合わせる顔がないですよ。（いや、どれだけ顔を隠してもそのデカイ顔は見えていますよ）」と顔のデカさによらず細やかな気遣いをしてくださった佐藤さん。顔のデカさ同様、本当に心が広い人です。そんな佐藤さんのご尽力で以下の行程を組むことができました。

初日

- ・あづま果樹園での桃狩り

2日目

- ・いいたて村の道の駅までい館（休憩）
- ・昼食（語り部ガイドとの懇親会）
「まち・なみ・まるしえ」を訪問
- ・東京電力廃炉資料館の見学
- ・かんぼの宿いわきで宿泊

3日目

- ・いわき・ら・ら・ミュウを視察

今回の福島県応援ツアーは、被災地でも視察するのが難しい場所を訪れることもあり、私単独でのツアーとなったこともお伝えしておきます。

あづま果樹園

福島市飯坂町にある「あづま果樹園」を訪れました。吾妻一夫・代表取締役のご厚意により、電動車椅子でも移動しやすい桃畑で桃狩りを楽しむことができました。風通しの良い畑であるのと桃の木と葉っぱがちょうど日を遮ってくれたおかげで、心配していた暑さもかなり軽減され、快適な環境の中で過ごすことができました（佐藤さんは顔がデカイ分、熱を取り込んでいたようで少ししんどそうでした。）。私たちが訪れた時期は、「暁星（ぎょうせい）」という品種が出ており、介助者にもぎ取ってもらいながら食しました。やや小ぶりですが酸味が少なく甘み

が強い桃でした。お昼ご飯は済ませていたのですが、食べだすと止まらず立て続けに5個も食べてしまいました。介助者ももっと食べていたので、いかに美味しかったかが想像できると思います。大変堪能しました。聞いたところでは、暁星が出だすと本格的な桃のシーズンの到来らしく、暁星の後には福島の主力である「あかつき」が出てくるそうです。

あづま果樹園では、福島民友新聞社が私たちの活動取材してくださいました。風評被害を乗り越えて多くの人で賑わっている桃園で、車椅子ユーザーである私たちも一緒に桃狩りを楽しめることがなにより嬉しいということを語りました。あづま果樹園は、障害者に障害のない人たちと同じように果物狩りが楽しめる環境を提供してくれています。みなさんも是非訪れてみてください。



あづま果樹園でのビッグフェイスブラザーズ

いいたて村の道の駅までい館

2日目は、ホテルを出発して浪江町を目指しました。福島市から浪江町までは距離もあるので、途中の飯館村で休憩することにしました。県道12号線沿いにある「いいたて村の道の駅までい館」に立ち寄りました。「までい」とは「手間暇を惜しまず」「心を込めて」「丁寧に」「慎ましく」といった意味の方言らしいです。佐藤さんを見ていると顔のデカさもそうですが、この「までい」という言葉がぴったりと当てはまります（急に褒めてみました）。この道の駅は復興のシンボルとして約2年前に開駅されたそうです。実は道の駅にたどり着くまでに要所要所で汚染土（除染処理してありますが、ここではあえて

汚染土と書きます。)と線量計が目にとまりました。道の駅にもやはり線量計が設置されており、これが被災地の現実なのだとは複雑な気持ちになりました。館内は天井から草花が吊り下げられたり、自然を感じさせる彩りが施され、線量計とは対照的に心穏やかに過ごせる空間となっていました。



一番目立つところにある線量計

浪江町 まち・なみ・まるしえ

浪江といえば、安室奈美恵が真っ先に思い浮かんでしまいますが、福島浪江町といえば「浪江焼きそば」が有名です。4 都県合同交流会のときに浪江町から避難されてきた方のお話を聞いたので、一度は訪れたい被災地でした。今回ようやく実現しました。私たちがお話を伺うことを受け入れてくださったのが、浪江町仮設商業施設「まち・なみ・まるしえ」の中で「キッチン・グランマ」を運営されている渡邊りえ子さんでした。「まち・なみ・まるしえ」とは、一部で避難指示が解除されたけれど、帰宅しても周辺にはお店がないため、食事や買い物ができないという状況を改善すべく、浪江町役場の敷地内に開設された仮設商店街です。

キッチン・グランマは、食堂の経験がなかった渡邊さんが町役場からの要請によって出店されました。当初はある程度の期間で辞めるつもりでしたが、訪れる人たちや年配の方々の要望により継続することにしたそうです。「家族に食べさせる家庭的な料理」をコンセプトにしているらしく、ボリュームがありそれでいて懐かしい味のお弁当をいただきました。「とにかくみんなの胃袋を満たして元気にしたいの

よ！」と笑顔でおっしゃる渡邊さんが印象的でした。



震災時のお話を聞く宮野と佐藤さん(右)

渡邊さんを含めた5名の浪江町の復興に尽力されている方たちと懇親会をしました。震災発生時は避難指示がなく、自主的に避難をしたがすぐに帰れると思っていた。一夜明けると急に国からの避難指示が出て、それ以降8年間町に戻ることができなくなった、という話には言葉を失いました。帰ることが当たり前で、そこに何の疑問も抱かない日常が突然奪われてしまう。想像することが難しいです。帰りたくても帰れない8年間はあまりにも惨く感じます。また、性被害の危険性が日常的にあるという話もショッキングでした。年配者であっても例外ではないとのこと。震災は何を壊し、どこまで壊していくのか？深く考えさせられました。避難指示が解除され自宅に戻ったけれど、先が見えない中で生活しなければならないという過度のストレスのせいで「何をやっても、何をしても面白くない」と淡々と語る女性の表情にも心を締め付けられました。現在の浪江町の人口は約1000人。「まだ1000人ですか…」との私の不用意な発言にその場にいた人たちから「私たちからすると『まだ1000人か』ではなく、『1000人も』戻ってきてくれたんです。0人から再スタートしての1000人なんです。」との言葉をいただき、被災地とそうではない地域住民者の認識の違いに気づかされました。「この地はすでに前を向いているんだ。」今回の訪問で知ることができました。「また来ます。必ず来ます。」一度訪れたものとしてどのように進んでいくのかを見なければならぬ。そういう

思いを強く持ちました。来年も、これからもお元気で！来年会いましょう。



まち・なみ・まるしえ懇親会メンバー

帰宅困難区域視察

浪江町を後にして富岡町にある東京電力廃炉資料館までにある国道6号線沿いの帰宅困難区域を車の中から視察した。「車の窓は絶対に開けないこと。」という条件付きでこのルートを通ってもらいました。私はハイエースの後部に乗っていたため、電動車椅子をほぼフラットな状態にリクライニングさせて、窓からなんとか外を見ながら走りました。浪江町から富岡町までの約30分、見づらいたとは言えその重苦しい雰囲気を感じ取るには十分でした。いきなり人気ないところから人気は一切なくなる。家や建物はそのままに人だけがなくなった世界。「ここに人が戻ってこられる日がやってくるのだろうか？」廃墟と言ってはいけない、ゴーストタウンとは言ってはいけないとわかっている、そうイメージせずにはいられない景色が広がっていました。なぜこうなったのか？なぜこの地を追われなければならなかったのか？そう考えると怒りを禁じ得ません。

東京電力廃炉資料館に着くまで相当長い時間がかかったように感じました。その後、資料館で震災当時の原発の状況、なぜ事故は起きたのか、廃炉にするまでの工程を見ましたが、実のところあまり覚えていません。それぐらい車から見た帰宅困難区域の様子が頭から離れませんでした。



国道6号線双葉町にて

最後に

まだまだ書き足りないことがあります。くだらない話をたくさんしているので、それを抜くともう少し情報が盛り込めますが、全体を見てみても笑うことや考えさせられることがあつてのツアーであったと思います。そしてこの行動こそが「忘れない・忘れさせない」ための活動につながります。

東京電力廃炉資料館での東京電力の「反省しています」との言葉。どうこの失敗を次に活かしていくのか、この国に生まれたものとして一緒に考えなければなりません。見届けなければなりません。

ただし人は必ず立ち上がります。「いわき・ら・ら・ミュウ」も津波の甚大な被害を受けましたが、元気で活気があふれる市場に戻っていました。私もこの応援ツアーは続けるつもりです。またどこかを訪れた際には笑いを交えながら得た情報をお伝えしたいと思います。



かんぼの宿いわきの介護リフト付き温泉を楽しむ！

「アクセス関西ネットワーク集会」

大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾 広明

●バリアフリーで夢の実現！

2019年10月10日。大阪頸髄損傷者連絡会と兵庫頸髄損傷者連絡会が団体加盟するアクセス関西ネットワークの集会が神戸市で行われました。近畿2府4県の障害当事者、障害者団体がユニバーサルデザインのまちづくりや交通アクセス問題に取り組む団体で、毎年10月10日は集会としてバリアフリー関連の学習会、当事者の講演、各地域の取り組み報告などを行います。この日のプログラムの一つにあった「アクセス関西表彰」がとても有意義かつ目のつけどころが画期的な取り組みでした。それは“須磨ユニバーサルビーチプロジェクト”というもので、障害があっても気軽に安心して海水浴を楽しんでもらいたいという気持ちから生まれたプロジェクトです。



写真右はプロジェクト代表の木戸さん

頸損者の多くは「車椅子では海を楽しめない」と諦めていると思います。僕自身、以前砂浜に向かって車椅子で突っ込んだら電動車椅子が突然動かなくなったことがありました。ま、単純にタイヤが砂にとられて身動きできなくなったのですが、よくよく考えれば当然のこと。砂利道やあぜ道にしても車椅子では移動困難ですよ。ところが、このプロジェクトでは砂浜にブルーシートのようなビーチマットを敷いて移動可能にして、波打ち際まで行けるようになったら“ヒッポキャンプ”と呼ばれる水陸両用車椅子を使ってそ

のまま海に入れちゃうのです。ビーチマットとヒッポキャンプの導入で「できない」ことが「できた」に変えられたわけで、ただ楽しみたいだけに障害があるから「できない」って諦めるのはおかしい。諦めたくない気持ちもたらした挑戦で、これまで誰もが意外に考えつかなかった斬新なアイデアです。今ではシャワーや更衣用テント、ビーチで遊ぶためのアイテムも導入されていますし、ビーチマットがあれば田植え作業も可能で、車椅子やベビーカーで通行が困難な場所で大活躍しているそうです。

●議論の場に当事者が参画する！

その後は各地域の取り組み報告があり、兵庫頸損連からは「明石駅周辺のバリアフリー調査」の報告が行われました。最後に記念講演が行われ、「地域課題から国への提言」と「活かそう！バリアフリー法改正～当事者評価から見た好事例と課題」の二本立て。これまでに行われた具体的な調査内容から見えてきた地域課題は地域から国へ！移動円滑化評価会議の俎上に載せる必要がありますし、今後は改正バリアフリー法で導入されたマスタープランを活用した明石市の好事例を参考に、地域における取り組みを強化していくことが求められます。バリアフリー化整備目標の進捗状況を踏まえながら、議論の場に障害当事者が参画し、評価することも重要となります。



集会の様子

集会には約150名の参加がありました

20年ぶりの飛行機でいく「リハ工学カンファレンス in さっぽろ」

愛媛頸髄損傷者連絡会 鈴木 太

世の中夏休み中で暑さの続く8月21日から23日まで、北海道札幌市の北海道科学大学で開催された第34回リハ工学カンファレンス in さっぽろへ参加してきました。このカンファレンスは障害のある様々な方が生活をより豊かに実現するための工学支援技術を発表し、議論・交流を深めよりよい生活のヒントを見つけようというものです。

今回私がカンファレンスに参加して気になった発表・支援機器は、

・「在宅での利用を考慮した軽量・コンパクトな電動リクライニング・ティルト式電動車椅子の開発・(第4報) ～生活場面を考慮した走行性の実現～ 北野 義明(石川県リハビリテーションセンター)」という発表では、よりよい機能を持った電動車椅子を求めると重量が重くなってしまう中、電動チルト・リクライニングを備えて重量50キロ、車幅54cmと聞くと興味の多い方がいらっしやるのではと思いました。

・「相対湿度50%における頸髄損傷者の至適温度範囲の再検討 三上 功生(日本大学 生産工学部 建築工学科)」では、発汗障害のある頸損者が健常者とは違う体温変化を起こすことにより、求められる住環境の注意点や衣服の対策を感じることができました。ぜひ、寒い場合の調査もお願いしたいと、発表後の交流会でお伝えすることもできました。

・周辺の市民を対象とした市民公開講座も開催され、「障害者・高齢者に優しい観光 in 北海道 吉田拓哉(株式会社HKワークス)」では、観光都市北海道がバリアフリー観光に取り組む現状を知ることができ、次回観光で訪れた際は今回お知り合いになれたネットワークを活用した、障害者だからできる北海道の旅を経験してみたいと思いました。

ちなみに私も発表させていただき、「海外製電

動車椅子利用頸損者のドア事情」ということで、昨年導入した自動玄関ドアのある生活を報告してきました。

実りの多いカンファレンスであったのですが、実は現地についた時点で体はクタクタでした。避けてきた飛行機に20年ぶりに乗るということで何カ月も前から準備したのです。

電動車椅子が大きいので積み込み可能な飛行機の大きさ、羽田経由での移乗回数を少なくするため、朝早い岡山-新千歳という直行便ルートを選択しました。それが裏目に出ました。一番に飛行機へ通され座席に着席。後は出発という時点で客室乗務員さんがザワザワっと。「どうやっても電動車椅子が荷室に乗らないので、大きいサイズの飛行機で羽田を経由して新千歳まで行ってほしい」と。そこから飛行機を降り、4時間遅れて羽田へ、乗り換えて新千歳。

カンファレンス会場についたら、17時過ぎていました。そのため、1日目(8月21日)に開かれた、香川(4月)、高知(7月)のシンポジウムからの発展版シンポジウム「持ち上げない介護」の議論には参加できませんでした。

ちなみに、帰りは、カンファレンス会場にいた技術者や業者の手を借りヘルパーさんが指導を受け、借りた工具で空港職員がアームレストを分解し、直行便で帰ってきました。

そして想像以上の疲れと寒さで動き回れず、唯一の収穫が札幌駅直結のJRタワー展望室にある多目的トイレがガラス張りという発見にテンションが上がった札幌の旅でした。

次のリハ工学カンファレンスは北九州です。オリンピック・パラリンピックの開催があるため気候的には過ごしやすい2020年10月24日から26日開催になります。多くの頸髄損傷者連絡会メンバーも参加していますので、興味のある方はぜひご連絡いただき一緒に参加しましょう。

2019年 第10回4都県合同交流会・宇都宮にて

「福島頸損友の会」代表 相山敏子



2019年10月20日(日)、令和になってから初めての「4都県合同交流会」が栃木県宇都宮市東市民活動センター第5会議室で無事に開催されました。記録的な大雨により東日本各地の河川が氾濫し甚大な被害をもたらした台風19号が過ぎ去ったばかりで、8年前の東日本大震災を思い出させるような光景に大自然の恐ろしさを改めて痛感しながらの仲間との再会でした。正にわが町が水没していくという被災地から参加してくれた仲間もおります。避難所に辿り着いたものの、結局は車の中で一夜を明かしたという仲間もおります。開催も危ぶまれるようなこの状況の中で第10回目を迎えられたこと、仲間の無事を確認し合えたことは本当に嬉しいことでした。

以前から大きな課題でもありましたが、話題は自ずと被害の現状報告から災害時における対策、



福祉避難所の早期開設の必要性、避難所の在り方の重要性などが中心になりました。また、前回から事務局長が兵庫から参加してくれているので、九州や四国の仲間たちのエネルギーな活動の様子も直で知ることができました。地域を変えていく彼らの逞しい姿が目につかぶようです。

「これまでに経験したことのないような」という言葉が聞き慣れてくるほどに、大きな自然災害が毎年のように多発しております。だからこそ、仲間との繋がり大きな力となるし、顔を合わせることで得るものは大きいと今回は特に強く感じさせられる交流会となりました。



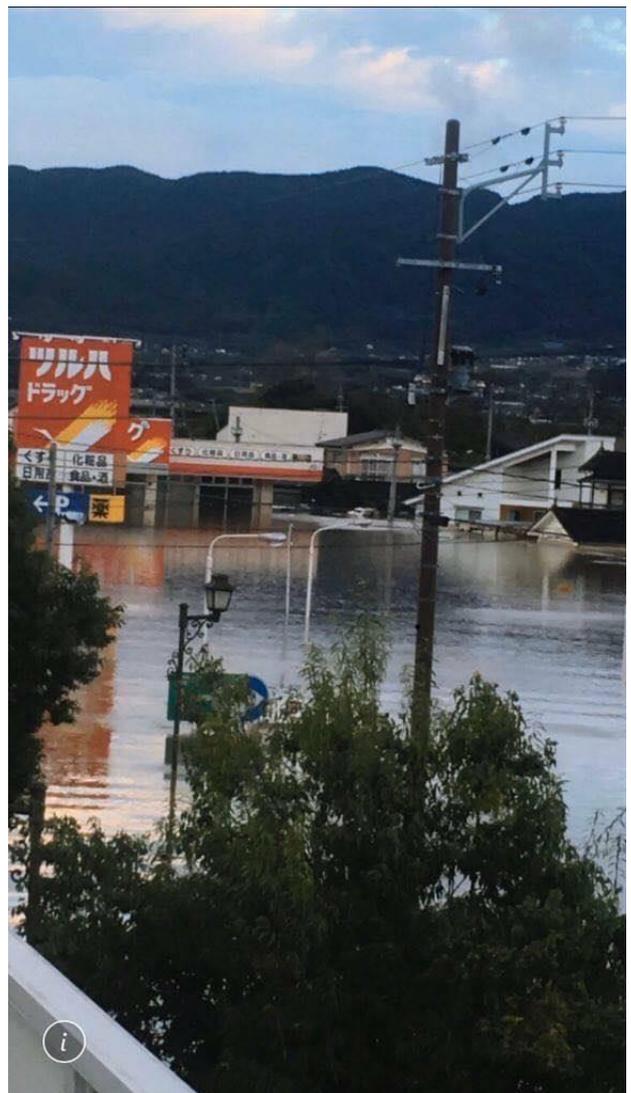
帰り道、宇都宮市内のあちこちに泥だらけの家財が積み重ねられてあるのを見て、ここもまた被災地であったということに気がきました。心より皆様の無事と一日も早い復興を祈ります。



福島県伊達市梁川町から交流会に参加してくださった、佐藤孝浩さんの生の声を画像を添えてお伝えします。(Facebook より)

佐藤孝浩 10月13日 13:19

Facebook 友達の皆さん、ご心配をおかけしております。既に全国の TV ニュースでご存知の方も多いたと思いますが、私が住んでいる福島県伊達市梁川町は(町の北側一帯)阿武隈川、広瀬川、塩野川が氾濫して、深いところでは水深 2m あり、車両は進入禁止で現在も救命ボートで人命救助している状況です！私は動けたので友人から写真と動画で現状を伝えてもらいました。幸い私が住んでいる地域は高台で避難することもなくライフラインも大丈夫です。ただ今朝の起床介助予定のヘルパーさんのお宅が塩野川の氾濫で避難しているため急きょ他のヘルパーさんの起床介助を受けて何とか車椅子へ移乗させていただいて自宅で生活しています。また同じ町在住の友人、知人や宮城県丸森町にも親戚がおり、自宅 2 階で孤立していて心配ですが、午前中に安否確認はできたので一刻も早く水が引いてくれるのを祈るばかりです。どうか台風 19 号の被害に遭われた皆さんがご無事でありますように！



東京・神奈川頸損合同交流会

東京頸髓損傷者連絡会 鴨治慎吾

日時 2019 年 11 月 3 日(日)12:00~14:30 場所 横浜クルーズクルーズ



今年も神奈川頸髓損傷者連絡会の皆さんと横浜駅直結のスカイビル 27F にある横浜クルーズクルーズの一室貸切でビュッフェを満喫してきました。自己紹介からはじまり、食事を堪能しながらのビンゴと皆で楽しいひと時を過ごしました。



★参加者からの声★

☆はじめまして、戸石 薫と申します！
僕は7年前の21才の時に世界一周の旅の途中で事故に合い頸損になりました。
福岡や別府等で4年間リハビリして復帰し、今年、初めて車イスで海外留学に挑戦しました。どうぞよろしくお祈いします！今回、初めて東京・神奈川頸損合同交流会に参加しました。
普段食べられない美味しい料理やビンゴ大会、参加者の方達との交流も、とても楽しい会でした。ビンゴ大会も全員が景品をゲットできて、僕は洗

剤やスポンジ等の実用的なグッズでしたが、皆さん「沢山空くのにビンゴは来ない」と叫んでいて、面白かったです！

今後も、イベントに参加して、沢山のアドバイスを聞き、もっと人生を楽しんで生きたいと思いました！



☆こんにちは！八王子在住の柴崎愛と申します。頸損歴はちょうど10年です。頸損会に入ってから神奈川との交流会はほとんど出席していましたが、ここ2年は都合がつかなかったため久しぶりの参加となりました。東京神奈川交流会はいつも学生ボランティアさんがきていて、これから福祉に携わろうと思っている人とも交流できるところが素敵です♪今回も、学生さんが私の趣味であるバンド活動について熱心に質問してくれました。いつもいっちゃう神奈川頸損の女性陣が不参加でお会いできなかったのは残念ですが、また次回に期待します！

★学生ボランティアの声★

『本当に行ってよかったと思ってます。授業では、障害のある人でもやりたいことや出来ることはあると言われてきましたが、実際に当事者の人達と話すとは本当にそう思いました。』

Aさんは絵を描くことが好きで、Sさんは歌が好きでいまもそれを仲間と続けていますし、Aiさんは元米海軍という経歴があり、その人その人の生きてきた道というか、どんな人なのかっていうのを聞いて凄く楽しかったです。

Tさんはこれから英語を熱心に勉強してカルチ

ャースクールを起業したいと話してくれましたし、僕なんかよりよっぽど活動的で夢持っているなと思いました。

今日は病気や障害の介助、介護というよりはお話ししながらごはん食べていて、一応ボランティアという名目で来てるのに良いのかな、とも思いましたが、寧ろそれのおかげで障害だけ見るんじゃないなくて、来てくれた人達自身がどんな人なのかを知れる機会になれたと思います。

ただ人混みの中を通ったり、買い物の支払いをするのもスムーズにはいかず、他の人に頼む必要があることも多いと思います。そういうことを遠慮せずに頼める、その人にとって信頼できる1人にならなきゃなと感じました。』

県保健福祉大 小川凜太郎

『今日は、交流会に参加させていただきありがとうございました。今まで、頸損の方の介助をしたことがなかったので、わたしにも出来ることあるだろうかと不安でしたが、I さんをはじめ参加者のみなさんに教えていただき、お手伝いさせていただきました。実際にお手伝いをさせていただいたり、食事の様子などを見たことで教科書の文面だけでは学べない難しさであったり、介助をする際に意識することが多くありました。特に、学校の先生には信頼関係が大切だと教わっていましたが、それを実感したのが今日でした。信頼関係があることで、やりたいことや、してほしいこ

とを介助者に伝えられるのだと思います。なんでも遠慮せずに言えるというような信頼関係を築けるOTを目指したいです。また、参加者のみなさんがお話されていた褥瘡や、I さんがおっしゃっていた体温調節など、わたしにはまだまだ知らないことが多くあり、これから多くのことを学んでいきたいという意欲が湧きました。最初にI さんに言っていただいように、参加者の方のお話を聞くこともできました。音楽や絵に取り組む方もいらっしやっして、活動的な印象でした。そして、その話題について多くのお話を聞くことが出来て、楽しかったです。参加者のみなさんの生活の中では、自助具の利用やスマートホンに付ける指かけなど、様々な道具を用いていました。日常のものを工夫して使っていることで、こんな使い方もできるのかと、みなさんの工夫がとても刺激になりました。今回、交流会に参加させていただいたことや、普段自分では気づくことのできないことを、少しではありますが頸損である方の目線で考えることができたと感じています。だからこそ、今回で今自分の学ぶべきことや、将来のOT像が掴めてきました。

本日、貴重な機会を設けていただき、参加させていただき、ありがとうございました。I さんから、こうした機会を設けていただくことは、わたしにとって多くの刺激と勉強になります。また、何かあれば声をかけていただけると嬉しいです。本日は大変お世話になりました。ありがとうございました。』

県保健福祉大 本郷咲夏



京都・大阪合同交流会 京都の観光地巡り

京都頸髄損傷者連絡会 木村善男

京都頸損連絡会と大阪頸損連絡会の交流イベントとして、年に一回開催される「京都・大阪合同交流会」は、京都と大阪が持ち回りで主催しています。今年は京都の順番で、「京都の観光地巡り」と銘打って10月20日（日）に開催しました。去年の大阪が主催した「ニフレ（語源：に触れ）」は、いろいろな生き物に触れることができ、とても楽しいものでしたから、京都も負けじと「京都の観光地巡り」を企画。ちょっと詰め過ぎた感はありましたが、参加された皆さんは京都らしさを満喫しつつ、交流を楽しめたのではないのでしょうか。

天気の悪い日が続いていたため、当日の天気はどうなるのかと心配していましたが、すっかり雨も止み、日差しも射すほどに回復しました。暑くも寒くもなく、京都の観光地巡りとしては絶好の日和になりました。

集合場所は、四条烏丸の交差点を少し南に行ったところにある「COCON烏丸（ここん からすま：古今烏丸）」。集合時間の11時にみんなで写真をパチリ。そして最初のコースである「錦市場」へ。



パチリ、の集合写真

「とても混んでいる」というイメージが強かったため、興味はありましたが、私は錦市場に行ることがなかったのです。どのくらい混んでいるのか、下調べのため、会のメンバーで、同じ日曜日の同じ時間帯に錦市場を体験しましたが、混ん

ではいるものの、車イス使用者でも問題なく楽しめることが確認できました。湯葉や生麩などの食べ物や和傘など京都らしいものを売っている店がたくさんあり、ウインドーショッピングだけでも楽しめます！（私個人のユーチューブ動画で錦市場の店の写真約500枚を見ることができません。チャンネル名 Wheelchair User Yoshio）

さて、当日の錦市場ですが、みんなで一緒に回るのは難しいため、まずは錦市場の端から端までを、みんなで移動しながら興味のあるものをチェックすることにしました。



烏丸通から入って反対側の寺町通と交差するところ（錦天満宮）まで進み、途中からの参加者を待ちつつ、何を食べるのか作戦会議の始まりです。京都らしく「ハモ」を推す声が多く、私もハモのてんぷらを食べました。京都の村田会長の「つきたてのお餅を食べる！」という言葉に釣られて、同じ店に入った人が何人かいましたが、私もその一人です。店先でビールや日本酒のコップ売りもあり、楽しくおいしい錦市場でした。

13時30分になったところで、錦天満宮の前で記念撮影をして、次の目的地である三条大橋に進み、鴨川の遊歩道に降り・られませんでした！自転車やバイクの二輪車を入れられないようにしているのだが、私たち車イス使用者も通れない！？行政に訴えるための証拠写真をしっかり

と撮りましたが。



降り・・・られません！

三条大橋を渡り、大和大路を南に進み、大和橋のところで記念撮影。川に沿って柳の木をめでながら白川筋を東に進むと、京都らしい場所として

ドラマ撮影などでよく使われる有名な辰巳大明神があります。記念撮影をして、次の場所へ。

知恩院を通り抜け、円山公園、そして八坂神社へと、京都の観光地を、記念撮影を撮りながら巡り歩きました。

ふと流れる小さな川が、森鷗外による有名な短編小説「高瀬舟」の舞台となった高瀬川であったり、何気なく通る場所（三条木屋町から少し下がったところ）が、豊臣秀吉によって甥の秀次とその一族の処刑で鴨川が真っ赤に染まったという三条河原という刑場であったり。

改めて京都の良さも知ることのできた楽しい京都と大阪の交流イベントでした。



八坂神社で記念撮影

第14回四国頸損の集い2019を高知で開催しました

愛媛頸髄損傷者連絡会 鈴木 太

2019年11月10日、高知県高知市本町にある一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワークの一角をお借りし、第14回四国頸損の集い2019を開催しました。

前年2018年の四国頸損の集いを開催中、愛媛・香川・徳島と頸損連絡会のネットワークがある中、昔は中心的存在であった高知の頸髄損傷者ネットワークが無いのは寂しいということで、高知開催を1年前に決定していました。その後、各個人でつながりのある高知の頸髄損傷者に連絡を取り合い、会場準備を依頼しました。その流れの中、高松市での合同シンポジウム、高知ふくし機器展やリハ工学カンファレンスなど中四国で活動するリハ工学に携わる方々から障害当事者の方々との接点を模索する動きがありました。そこで、それをつなぎ合わせた勉強会を四国頸損の集いの中で開催する運びとなりました。

当日、気持ちのいい快晴の中、愛媛から2名、徳島から2名、高知から1名、兵庫から1名の頸髄損傷者が参加しました。それに加えて、広島から1名エンジニア、高知の障害当事者3名ナチュラルハートフルケアネットワークスタッフ2名の参加があり、介助者を合わせると20名のスタートでした。

はじめは恒例の自己紹介。初めての方もいらっしやるので軽く近況報告も交えながら始まりました。その後、準備していたお弁当を食べながら談笑。13時となったので、各県の近況と各自の近況を報告してもらいました。そこで話題となったのが痛みやしびれについて。違う障がいの方から動かないことによる痛みや疲労の投げかけが

あったことから、頸髄損傷者によくある痛みやしびれにどう付き合っているのかという話題で盛り上がりました。薬を処方してもらっている現状や、お酒で温めると緩和する、お医者様には理解してもらえないなどいろんな意見がでました。その中、手足を引き抜き損傷（手足は残っているが神経が損傷している状況）された方によくある痛みやしびれに、バーチャルリアリティを活用して治療するという、全く新しい試みが紹介されました。まだ研究段階ということでしたが、手足が正常に動く映像から脳が錯覚し、痛みやしびれが緩和されるというものでした。脊髄損傷者への有益性もある様なので、今後体験会を企画する方向となりました。

14時から、ナチュラルハートフルケアネットワークで研修会が行われている会場に同席させていただきました。ポジショニングシートやターナーと言われる、スリング（吊り具）を使った抱え上げない介護方法の事例を実演いただきました。抱え上げないといってもリフトを活用することで大きな力を必要とせず、体位変換や移乗、更衣を行う方法です。体験された方は介護を受ける方にも負担の少ない体位変化に驚いていました。デンマークからの講師二人のでしたが、海外ではよくある介護方法がまだまだ日本では一般化されていない現状を実感する時間になりました。

次回の四国頸損の集いは2020年11月8日（日）に開催することを決定して解散しました。また来年、開催しますので全国から遊びに来ていただければと思います。

お役立ち！？

東京頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

今回は、発電機やポータブルバッテリー等アウトドアや災害時に役に立てそうなものをピックアップしてみました。

1. ポータブルバッテリー *1

①Anker PowerHouse (アンカー・ジャパン株式会社)

製品サイズ 約 200 x 145 x 165mm

製品重量 約 4.2kg

バッテリー容量 14.4V / 434Wh

価格：49,800円

<https://www.anker-japan.com/category/DISASTERKIT/A1701.html>

本社：〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-1 いちご新川ビル 4F

TEL 03-4455-7823

Email お問い合わせホームから



②Jackery ポータブル電源 700 (株式会社 Jackery Japan)

梱包サイズ 30 x 19.3 x 19.2 cm

商品重量 6.3 Kg

ワット数 500 W

バッテリータイプ リチウムイオン

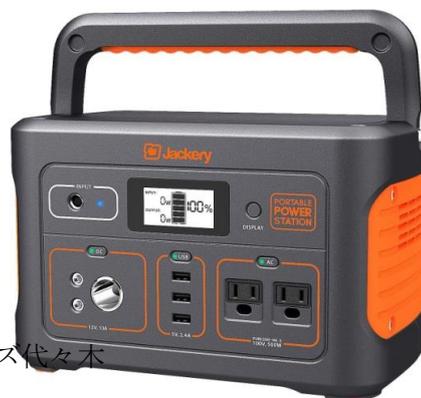
価格：79,800円(税込)

<https://www.jackery.jp/products/explorer-700>

本社：〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-55-14 セントヒルズ代々木

TEL 03-6315-4822

Email hello@jackery.comk



③SmartTap ポータブル電源 PowerArQ mini (運営元 加島商事株式会社)

梱包サイズ 23 x 19.3 x 19.5 cm

商品重量 3.5 Kg

電池： 1 リチウムイオン 電池(付属) 311Wh

価格：33,000円(Amazon)

<https://sm-tap.com/>

運営元 加島商事株式会社

〒818-0022 福岡県筑紫野市筑紫駅前通 1-10-303

TEL 050-3184-1730

Email お問い合わせホームから



*1 注意 ポータブルバッテリーは、バッテリー容量や出力が商品によって異なります。自分の使用にあった物を選択する必要があります。

2. カセットガス発電機 *2**①HONDA EU9iGB (エネポ)**

全長(mm):365 全高(mm):524 全幅(mm):262

定格直流出力:12V-8A

定格交流出力 50/60Hz:100V-0.9kVA

騒音(dB):79~84

連続運転時間(h) (1/4 負荷~定格負荷):2.2~1.1

周波数切替スイッチ付

オイル警告装置付

価格:121,000円(税込)

<https://www.honda.co.jp/generator/lineup/eu9igb/>

株式会社ホンダパワープロダクツジャパン

埼玉県越谷市神明町2丁目290-1

TEL 0120-112010

Email はお問い合わせホームから

**②三菱重工 三菱ポータブルカセットガス発電機 MGC900GB**

100V-850VA (50/60Hz)

直流 12V-8.3A

電圧調整方式 インバーター方式

定格連続運転時間 約1時間 (ボンベ2本)

騒音値 60dB (A) 定格運転時/7m

乾燥質量 22kg

本体寸法 400×330×390mm

価格:115,500円(Amazon)

<http://www.mhi-meiki.co.jp/products/portablepower/mgc900.html>

三菱重工メイキエンジン株式会社

〒453-8515 愛知県名古屋市中村区岩塚町字高道1

TEL 052-412-1144

Email はお問い合わせホームから

三菱ポータブルガス発電機**MGC**シリーズ

※カセットガスは付属しません。

***2 注意** 商品は、カセットガスを使用する物です。

発電機ご利用に関するご注意

1. 屋内など換気の悪い場所では絶対に使用しないで下さい。
※換気の悪い場所で使用した場合、排気ガス中毒の恐れがあります
2. ご使用される前に、必ず取扱説明書をお読み下さい。
※下段、技術情報欄に取扱説明書を掲載しております

近年、地震や台風等による災害が多発しています。障害者にとって、電動ベッドや移乗用リフター等の福祉機器が欠かせません。停電が起こった場合の一時的な対策のひとつとして、ピックアップしました。他にも商品が色々ありますので、ご参考までに。

2019年リハ並木祭

東京頸髄損傷者連絡会 鴨治慎吾

10月19日(土)、国立障害者リハビリテーションセンターにて、リハ並木祭が開催されました。

毎年、恒例になってはいますが、今年も出展しました。

訓練棟1階第8教室の場を借りて「頸損連絡会の活動紹介」や「頸損何でも相談」を行いました。

前日からの雨により、並木祭自体の参加者がいつもより少ない感じでした。



今回の展示は、過去1年間の活動報告、頸損連絡会の説明、頸損連絡会の始まりからの年表、東京頸損機関誌「お江戸 くちはっちゃん」、全国頸損機関誌「頸損」の配布と「頸損解体新書」の紹介等です。後は、頸損何でも相談を行いました。

相談者の中には、近隣の病院に入院している頸損の方なども来られ、「電車での移動は、どういう感じなのか?」「どんな活動をしているのですか?」などがあり、あまり電車に乗った経験がないようなので、今回の相談が、皆と同じように電車を利用できるき



っかけになれば、良いなと思いました。



毎年、リハ並木祭では、様々な催し物が行われております。

体育館では、車椅子スポーツ体験などがあります。その中でも、車椅子バスケットと車椅子ラグビー(マダーボール:北米では「殺人球技」とも呼ばれる)の体験もあり、頸損当事者でも体験できるそうです。

車椅子スラロームの体験もあり、ソフトからハードなスポーツまでどなたでも体験できます。

また、同日に隣接している国立障害者リハビリテーションセンター研究所にて、「2019 オープンハウス」(研究所一般公開)も行われました。

その中でも、オープンハウスではBMI(ブレインマシン・インターフェイス:脳波等の検出・あるいは逆に脳への刺激などといった手法により、脳とコンピュータなどのインタフェースをとる機器等の総称である)の実用化研究や再生医療実施機関との連携による臨床研究(治験)などの報告展示があり、頸損にも興味深い研究がいくつかありました。

2011年から始まった「国リハコレクション」も開催され、数多くの団体の出品があり、機能性だけでなく、ファッション性に富んだ商品が展示されており、相談もできるそうです。

室外では、リハ職員や近くの地域の団体による出店(うどん・揚げパン・たこせんべい等)があり、和気あいあいとした雰囲気でお祭りを楽しむことができました。

また、色々な出会いもあつたりします。皆さん、ちょっと足をのばしてみても、どうでしょうか!

頸損解体新書の発行へ向けて準備しています

全国頸髄損傷者連絡会では、1991年2008年に頸髄損傷者へ向けたアンケートを行い、自立生活や社会参加の実態を頸損解体新書という形で報告してきました。前回の調査から10年が経過し、頸損者の生活実態も変化しています。

2020年1月にアンケートを実施いたしますので、会員のみなさまはもちろんお知り合いにも紹介していただき、できるだけ多くの頸損者の実態をデータに残しましょう。

今後のスケジュール

- 2020年1月 アンケート実施
- 3月 中間報告
- 4～10月 報告会・セミナー
- 2021年1月 最終報告書発送

頸髄損傷者の生活実態の把握を目的とした包括的な調査をこれまでに2回行ってきました。2回目の調査は1回目の調査から18年が経過しており、その間の頸髄損傷者の生活実態の把握にとどまらず、障害者を取り巻く社会情勢の変化も明らかにすることができる貴重な資料となりました。この調査報告を参考にし、自立生活を実現した頸髄損傷者も数多くいます。

既に、2回目の調査からの10年が経過し、調査時と比べ社会参加する障害者はさらに増加し、社会活動における障害者の権利に関する法制度が施行されています（障害者雇用促進法の改正、障害者差別解消法など）。これらは、頸髄損傷者の就労や合理的配慮に変化を及ぼしました。この10年間で特に大きな変化のあった、福祉機器やICT機器、医療の技術革新は、地域生活を送る頸髄損傷者の生活を快適・便利なものにしています。また東京オリパラ2020に向けて、さらに進化しようと社会全体の動きがあります。一方、2011年の東日本大震災、その後の多くの自然災害は、障害者に大きな被害を及ぼしました。災害時要援護者の避難体制、災害時の対応に対する議論が行われていますが、安心できる状況にはなっていません。このような時代の変化を頸髄損傷者の生活実態から把握することと、これまでの2回の調査項目と比較して社会状況を把握することが、今後の頸髄損傷者や障害者の生活にとって、重要かつ必要と考えています。

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

○頸損解体新書 2020 進捗状況

現在、アンケート調査実施に向けてアンケート内容を整理しています。ほぼ完成しており、これから最終チェックを行い、みなさまにアンケートにお答えいただくべく準備を進めていきます。

- ・最終チェック 12 初旬
- ・アンケート開始 1 月
- ・集計分析 2 月・3 月

この間もアンケート調査にご協力いただいている関係者と会議（Web 会議を含む）を行い、実態調査及び頸損解体新書 2020 の発行に向けて準備を進めております。

「頸損解体新書の発行に向けて準備しています」をお読みいただき、趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

○『頸損』電子版、「パスワード」設定について

機関誌『頸損』のパスワード制限を解除・廃止いたします。

障害者をめぐる社会動向の変化が激しい中で、情報は非常に重要であり、情報ひとつで障害がありながらも生活を豊かにすることは可能となっています。機関誌の情報は、本来会員の益であるべきですが、最終的には頸髄損傷者を含む障害者全

てに帰するものであるべきと考えました。より広く必要な情報が届くよう、WEB 掲載する機関誌へのパスワード制限解除及び廃止を代表者会議にて決定しました。10 月よりパスワードは解除してあります。ダウンロードして印刷の上、セルフヘルプにご活用ください。

○全国頸髄損傷者連絡会郵便振替口座変更の再告知

全国頸髄損傷者連絡会の郵便振替口座管理を兵庫県三田市の事務局で行うにあたり、郵便振替口座の取扱店が変更されています。取扱店の変更に伴い、郵便振替口座の名称が「全国頸髄損傷者連絡会」となっています。また、取扱店変更に伴い、従来あった銀行口座は解約しております。現在は、郵便振替口座のみとなっておりますのでご注意ください。

郵便振替口座

口座番号 00110-0-62671

口座名称 全国頸髄損傷者連絡会

ゼンコクケイズイソンショウシャレン
ラクカイ

取扱店 三田フラワータウン駅前 郵便局

全国頸損連絡会代表者会議開催

2019年8月25日(日)岡山市において全国頸損連絡会・代表者会議を開催しました。来年の全国総会についての内容検討を始めとして、ホームページの機関誌『頸損』パスワード撤廃、各支部活動報告等について充実した話し合いを行いました。

骨格提言の完全実施を求めて10・30大行動

本年も日比谷野外音楽堂での集会及び厚労省に対しての要求行動を行いました。

集会では、今年の参議院選挙にて初当選した、木村英子、舩後靖彦両議員の力強い意思表明もありました。

全国障害学生支援センターの活動紹介と障害学生受け入れの現状

～ 学びたいときに 学びたい場所で 自由に学べる社会を実現する ～

全国障害学生支援センター 殿岡 翼

全国障害学生支援センターは1999年4月の設立以来、20年目を迎えました。現在、肢体障害のスタッフ7名を含む11名の障害当事者スタッフを中心に、以下のような事業を実施しています。

1. 「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査」等、調査関連事業
全国すべての大学に対し、障害学生の受け入れに関する調査を実施し、障害学生のための受験サポートガイド『大学案内障害者版』を発行しています。
2. 相談・情報提供事業
大学受験や学生生活、大学での学内サポート、地域での自立生活などの相談に応じています。2018年度には計77件の相談が寄せられ、そのうち肢体障害は13件でした。
3. 『情報誌・障害をもつ人々の現在』の発行
年4回発行し「先輩からのメッセージ」で障害当事者の大学での体験を毎号掲載するなど、当事者の視点に立った情報発信を心がけています。
4. 学生交流事業
障害学生、卒業生のピアサポートと情報交換の場として「フェイスブックグループ 障害学生ネットワーク」を運営、またミニ交流会も開催しています。

全国障害学生支援センター <https://www.nscsd.jp/>
E-mail info@nscsd.jp
進学相談・お問い合わせは、相談専用電話 090-5807-1499



大学における障害学生受け入れの現状 ～2017 調査より受験編～

全国障害学生支援センターでは、2017年1月から2018年6月まで「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2017」を実施しました。今回はこの調査結果より、障害学生の在籍状況・受験状況を紹介します。

1. 受験可否

- 2016年4月から障害者差別解消法が施行されたことに伴い当センターでは、これまで調査を行ってきた「受験不可」の選択肢を「不当な差別的取り扱い」に該当すると考え、2017調査で廃止いたしました。
- 障害学生の受験可否の動向は、今回、すべての障害で

受験可否	可			未定		
	数	率	前回比	数	率	前回比
肢体	140	57%	8pt	107	43%	-6pt

肢体障害 可否未定理由 (複数回答可)	数	率
事前協議後検討	105	43%
統一見解なし	11	5%
教職員側の態勢未整備	6	2%
試験ノウハウがない	6	2%
キャンパス設備の問題	4	2%
合格しても受け入れられない	1	0%
その他	4	2%

受験可が増え、一方可否未定が減る結果となりました。

これは障害者差別解消法の影響であると考えております。

●受験可否未定の大学にその理由を尋ねると「事前協議後に対応を検討するから」がもっとも多くなっています。差別解消法が施行されてもなお、障害学生が「事前協議」で受験できるかどうか左右されるという実態が浮き彫りになりました。

たとえば設備や教職員側の受け入れ、試験ノウハウなど、その大学が受け入れに際して何に困っているかが見えてきます。ただし、「合格しても受け入れられない」のような、事実上受験不可といえる選択肢への回答も少ないながら残っているのは残念です。

障害種別在籍状況

障害種別	大学(校)	人数(人)	平均(人)
視覚障害	67	154	2.2
聴覚障害	117	488	4.1
盲ろう	0	0	0.0
電動車いす使用	49	104	2.1
手動車いす使用	35	56	1.6
上下肢	49	125	2.6
下肢	74	145	2.0
上肢	37	55	1.5
肢体障害	121	485	4.0
内部	106	916	8.6
発達障害	140	1308	11.9
精神障害	120	1518	12.7
知的	14	23	1.6
重複障害	41	135	3.3
その他	53	320	6.0
種別不明	9	38	4.2
合計	183	5385	29.4

2. 受験時条件

●受験時条件の内容を見てみると、「事前相談」「診断書の提出」

「障害者手帳コピーの提出」など受験時の配慮を決定するために必要と思われるものと、「入試時自分で身辺処理」、「入学後

肢体障害	受験時の条件	受験可	可否未定	合計	肢体障害	受験時の条件	受験可	可否未定	合計
	事前相談	90	25	115	入学後の補助者	大学は関与なし	5	1	6
	診断書の提出	57	10	67	大学は事故責任なし		2	0	2
	障害者手帳コピーの提出	37	6	43	誓約書の提出		0	1	1
	入試時自分で身辺処理	16	2	18	入学後大学で配慮なし		1	0	1
	入学後は自分で身辺処理	10	3	13	健康診断受診		0	0	0
	新設備設置・購入なし	9	4	13	解答不可能な問題の減点		0	0	0
	試験変更なし	8	3	11	その他		9	4	13

は自分で身辺処理」等、受験時の配慮内容や入学後の障害学生の活動や配慮内容等を著しく制約する選択肢に分けられます。通学や学内での生活、授業でのノートテイクなど、とくに人的支援が必要な場合には、こうした条件のある大学では配慮や授業での支援の詳細について注意する必要があります。事前相談で自分に必要な支援についてきちんと大学に伝えることが大切です。

3. 受験時の配慮

●大学には受験生から希望があったときに対応可能な方法を、複数選択で回答いただきます。

受験時の配慮	あり	率	前回比
肢体	206	83%	-1pt

試験時間	数
1.3倍	89
1.5倍	61
1.5倍以上	17
一般学生と同じ	119
その他	22
一般学生と同じ(時間延長なし)	71

試験室	数
別室	154
保健室	16
1階の部屋	123
洋式トイレに近接の部屋	124
一般学生と同室	100
その他	10
一般学生と同室(同室のみ)	22

受験時の配慮内容

	出題方法	回答方法
チェックによる解答		43
パソコン	13	28
拡大文字	84	85
口述		15
代筆		30
一般学生と同じ	146	136
その他	10	13
一般学生と同じ(他の配慮なし)	97	80

- 「一般学生と同じ」という選択肢は必ずしも配慮を行わないという意味だけでなく、受験生が希望したときに一般学生と一緒に試験を受けることができるという意味を含んでいます。ただし「一般学生と同じ」のみの選択肢を選び実質的に試験時間の延長を行わない大学も一定数あります。
- 出題および解答方法については、拡大文字が最も多く、チェックによる解答・代筆による解答・パソコンによる解答と続きます。パソコンや意思伝達装置の活用、代筆者の同席等、自分に合った出題・解答方法を選択できるよう、配慮が広がることが望まれます。
- 何らかの配慮を行う大学が206校ある中で、「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が、出題で97校、回答で80校に上ります。他の障害でも言えることですが、特に配慮を必要としない学生のみを受け入れるという姿勢の表れであり、こうした大学が支援を必要とする学生をまずは一人でも受け入れることで、変化していくことが期待されます。

全国障害学生支援センターでは2019年5月から最新調査を行い、その結果を『大学案内2020 障害者版』としてまとめ、2019年12月に発売いたします。

毎日新聞 2019年9月19日

重度障害の大学生も頑張れる 「修学支援事業」活用の大学生、 将来の夢を追いかけて 福岡工業大

重度障害がある大学生に学内で身体介助などのサービスを提供する大学修学支援事業に乗り出している自治体がある。高校までは支援員が配置されるなど重度障害の児童生徒が修学できる環境はあるが、大学になると公的支援が途絶えがちなのが課題だった。昨年度制度化され、現在は全国で23市区が導入。福岡市でも今年度から1人が利用している。

サービスを利用しているのは、福岡工業大（同市東区）の情報工学部2年、田子森（たごもり）敦史さん（19）。

今月初旬の昼過ぎ、田子森さんは、学内で男性ヘルパーの介助を受けてトイレを済ませると、フリースペースに移動。ヘルパーが、車椅子の背の部分に掛けられていたカバンから弁当を取り出し、フォークなどを準備していった。「昨年は母が昼に学校に来てくれて大変だったと思うので、ほっとしている」と田子森さん。支援事業を利用しながら大学でプログラミングを学び、エンジニアになる夢を追いかけている。

脊髄（せきずい）性筋萎縮症のため電動車椅子で生活する田子森さんは、左手の指はほとんど動かさず、動かせる右手もお菓子の袋を開ける力はない。トイレに行く際には介助が欠かせないため、朝昼晩と決まった時間に行くようにしている。昨年度は、母（45）が仕事の都合をつけて昼ごろに学校を訪れ、トイレの介助をしていた。

今年度からは福岡市の事業を活用し、昼のトイレと昼食の介護をヘルパーが担うようになった。授業の準備などは友人の助けを借りられるため、母は「昼間に大学に行かなければならないという制限はなくなったのでよかった」と話す。

国は2016年に施行された障害者差別解消法を背景に昨年度、大学に合格しても介助を理由に入学を断念する重度障害者が出ないように大学修学支援事業を制度化した。

障害が重い人が受けられる重度訪問介護の対象者が利用でき、利用者は原則1割を負担。残りは国が2分の1、県と市区町村がそれぞれ4分の1を補助する。全国どこでも利用できる重度訪問介護とは異なり、市

区町村が自主的に取り組む地域生活支援事業の一つだ。

大学で学ぶための公的支援の仕組みはできたが、就労中に身体介助などを受けられる障害福祉サービスはなく、重度訪問介護も「経済活動に係る支援」は認められていない。田子森さんは「せっかく大学で学んでいるのに就職が難しいとなれば、モチベーションも下がる」と表情を曇らせる。

97の障害当事者団体でつくるDPI日本会議の今村登事務局次長は、就労中も重度訪問介護が利用できるような制度改正を訴え、大学修学支援事業が「重度訪問介護自体の見直しにつながる足掛かりになればと願う」と話した。【杣谷健太】

重度訪問介護利用者の大学等の修学支援事業

地域生活支援促進事業で、重度訪問介護利用者に対する修学支援事業が、2018年度から制度化されています。

(1) 支援内容：

大学等において修学するに当たり、大学等が当該対象者の修学に係る支援体制を構築できるまでの間において、大学等への通学中及び大学等の敷地内における身体介護等を提供

(2) 対象者：大学等に通う障害者

(3) 実施主体：市町村

制度利用を希望する方は市町村の障害福祉課等にご相談ください

書籍紹介



福祉のまちづくり その思想と展開

ー 障害当事者との共生に向けて

高橋 儀平(著/文)

発行：彰国社

定価 2,500 円+税

【内容紹介】

本書は、障害者たちの運動に呼応しつつ、日本の建築・まちのユニバーサルデザインである福祉のまちづくり条例の方向を牽引して来た著者による、歴史を踏まえた総括と展望をまとめたもの。障害者・高齢者・子どもを排除しないまちをどうつくるか、その課題を明確に綴る。

東京パラリンピック 300 日前

「10.30 UD タクシー 全国一斉乗車行動！」報告

全国頸損連絡会 副会長 八幡孝雄

DPI 日本会議では、2019年10月30日、車椅子利用者による、全国一斉ユニバーサルデザインタクシー（以下UDタクシー）乗車行動を実施し、全国21都道府県で、延べ120名の車椅子ユーザーに協力頂いた。調査にご協力頂いた皆様には心より感謝申し上げたい。

DPI 日本会議のHP <http://dpi-japan.org/> に調査結果、および2019年11月14日国交大臣に提出した「ユニバーサルデザインタクシーの適切な運用を求める要望書」、また2019年11月19日付け、国土交通省自動車局旅客課長から全国ハイヤー・タクシー連合会に対して出された通達「ユニバーサルデザインタクシーによる運送の適切な実施の徹底について（国自旅第191号の2）」を確認することが出来る。

国交省の通達はDPI日本会議の要望を受けて出されたものである。

■乗車行動の目的

国土交通省は2018年11月に「ユニバーサルデザインタクシーによる運送の適切な実施について」という通達を出し、車椅子利用者の乗車拒否は道路運送法に違反するので、障害がある人たちに必要な合理的配慮を的確に行い、UDタクシーの運転、予約、配車その他の業務に携わる者に研修を受講させ、UDタクシーを指定した予約・配車が可能サービスを充実させること等、必要な環境整備を図るように業界に求めた。

しかし現在でも車椅子利用者に対する乗車拒否は起こっている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、海外から多くの車椅子利用者の来日が予想されるが、このままではUDタクシーの乗車拒否が多発してしまう。

乗車拒否が多発している要因は、ドライバーの接遇と車両の構造上の問題が考えられる。実際に

多様な車椅子利用者が乗車することを通して、乗車拒否の実態把握と、乗車するためのバリアがどこにあるかを調査して、結果をまとめ、事業者、メーカー、国交省等へ改善を働きかけ、真に誰もが利用できるUDタクシーを目指したいと考え、UDタクシー全国一斉乗車行動を行った。

■乗車行動の結果報告から

調査報告によると、乗車拒否は全国平均27%で、特に地方で不適切な運用が目立っている。都心部では、運転手の研修を繰り返し実施して車椅子の乗降方法の理解が進み、接遇が改善されている事業者も多かった一方で、地方では、電動車椅子はUDタクシーには乗車できない、車椅子を乗せるには30分以上かかる、といった誤った情報があった。車椅子の乗降方法を知らない、研修を受けていない、UDタクシーを指定した配車はできないという事業者も多くあった。

車椅子を乗降させる時の作業工程が多く運転手の負担になっている。室内が狭くて車椅子を回転できない、乗り口や天井に頭があたって乗車できない、といった意見が出ている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックには、海外の車椅子ユーザーの来日も予想されるが、海外製車椅子は日本より大型のものが多く、乗車できない事例が多発するのではないかと危惧される。

■今後に向けて

UDタクシーの乗車拒否の根本的な解決には、接遇問題ばかりでなく、世界基準を踏まえた「標準仕様ユニバーサルデザインタクシー認定要領の見直し」等も必要だと考える。

UDタクシーに関係する各方面には、これからもきちんと当事者の声を届け、誰もが利用しやすいUDタクシーの環境作りを求めていきたい。

報道ピックアップ etc

毎日新聞 2019年11月13日 東京朝刊

ともに・2020バリアーゼロ社会へ 乗降補助タクシー、3割が乗車できず 障害者団体が実態調査

車いすのまま乗車できるタクシー「UD（ユニバーサルデザイン）タクシー」について、障害者団体「DPI日本会議」（東京）が今年10月に車いす利用者延べ120人の乗車調査をしたところ、27%にあたる32人が乗車拒否などで乗車できなかった。同会議が12日に発表した。運転手がスロープの設置方法を知らないケースもあった。同会議は国土交通省に改善を求める。



電動車いすでUDタクシーに乗り込む土屋さん＝東京都江戸川区で2019年10月

UDタクシーは車両後部にス

ロープをつなげ、車いすのまま乗れる。東京五輪・パラリンピックを機に車いす利用者が増えることが予想されるため導入を進めている。運転手がスロープ設置や車いすの固定などを行う。

調査は東京パラリンピック300日前の10月30日に、21都道府県で乗車の可否や乗るのにかかった時間などを調べた。乗車できなかった理由は「スロープを積んでいないと言われた」「明らかに目をそらしスルーされた」など。乗車できなかったケースは東京都が21%に対し、都外では29%と地域差があった。乗車にかかった時間は平均11・2分だった。

電動車いすを利用する東京都江戸川区の土屋峰和さん（51）は調査で3台に乗車した。どの運転手も調査に備え、事前に乗せ方を練習していたが、ある50代の男性運転手は「時間がかかるので雨の日は勘弁してほしい」と本音を漏らした。

昨年6～9月の前回調査では延べ44人中11人（25%）が乗車できず、今回は改善はみられなかった。全国ハイヤー・タクシー連合会によると、UDタクシーは今年3月末時点で1万1872台で昨年同時期より7100台増えた。土屋さんは「会社側は、実際的な研修を継続してほしい」と訴えている。

【斎藤文太郎】

読売新聞 2019/09/26 19:36

車いす「操作わからない」と乗車拒否…バス会社を行政処分

路線バスに乗ろうとした車いすの男性の乗車を拒否したとして、国土交通省近畿運輸局は26日、帝産湖南交通（本社・滋賀県草津市）に対し、バス2台の使用をそれぞれ15日間停止する行政処分を行った。

運輸局の発表によると、男性は7月3日正午頃、大津市の「瀬田駅」バス停からバスに乗車しようとしたところ、運転手から「(車いすの乗降用の)スロープの操作がわからない」と断られ、45分後の次の便に乗車するよう促された。

バスはワンステップの低床型で、運転手がスロープを設置すれば車いすで乗降できる。帝産湖南交通によると、運転手は「発車時刻を過ぎていた」などと釈明しているという。同社は「不適切であり、男性に謝罪した。処分を重く受け止め、乗務員への指導を徹底する」としている。

2016年施行の障害者差別解消法は、障害を理由にした乗車拒否や入店拒否などを禁じている。

時事ドットコムニュース 2019年10月15日 15時16分

重度障害者、就労中も支援へ＝通勤、職場での時間対象一厚労省

厚生労働省は、日常生活で常時介護が必要な重度障害者への支援拡充の検討を進めている。職場で過ごす時間や通勤時の介護も公的支援の対象とする制度改正を行い、障害者の就労機会の拡大を目指す。当初、来夏までに具体策を取りまとめる予定だったが、制度改正を求める声が国会で広がっていることを踏まえ、同省は前倒しも含め対応を急ぐ方針だ。

重度障害者は、食事や排せつ、移動といった普段の生活のための「重度訪問介護サービス」を、月額の自己負担3万7200円を上限に受けることができる。しかし通勤時や職場での支援は「経済活動」とされ、対象外だ。

6月に成立した改正障害者雇用促進法の審議では、衆参両院の厚生労働委員会が、通勤に関する障害者への支援などを求める付帯決議をそれぞれ採択した。

また先の参院選では、れいわ新選組から重度障害のある船後靖彦、木村英子両氏が初当選したが、国会活動は歳費を受け取る経済活動と見なされたためサービスの対象とはならず、当面は参院の予算で対応することになった。

厚労省による支援策の検討では、高収入の重度障害者にどの程度自己負担を求めるかが焦点となっている。また、事業主が支払う保険料などを繰り入れている労働保険特別会計から費用を出す場合、雇用主のいないフリーランスと同じ支援ができるのかという論点もある。

財源を公費に求める場合は、大企業も含めた個別企業の経済活動への支援に税金を使うことへの理解をどう得るかなど、整理すべき課題は多い。

一方で、船後氏らの常時介護費用の負担を決めた参院議院運営委員会理事会が、一般の重度障害者への対応も急ぐよう政府に強く求めているほか、船後氏らが10日開いた院内集会に与党議員も出席するなど、制度改正を求める声は国会内で大きくなっている。

NHK NEWS WEB 2019年11月7日 19時25分

難病患者 れいわ船後氏初質問 音声変換と文字を瞳で示す

難病のALS＝筋萎縮性側索硬化症患者のれいわ新選組の船後靖彦参議院議員が、7日、参議院文教科学委員会で初めての質問を行いました。

装置かんでPC操作 障害者の教育環境整備を求める

大型の車いすを使う船後氏は、冒頭、チューブ状の装置をかんでパソコンを動かし、あらかじめ入力した文章を音声に変換しました。船後氏は「質問方法などに配慮をいただきありがとうございます。新人議員で未熟ではありますが精いっぱい取り組む所存です」と述べました。質問は秘書が代読して行われ、障害のあるなしに関わらず、子どもたちがともに学べる教育環境を整えるよう求めました。

再質問 文字盤の文字を瞳で示し秘書が読み上げ

また質問し直す際には、文字盤の文字を一つずつ、船後氏が瞳で示し、それを秘書が読み上げていました。このあと船後氏は、介助者を通じて「質問時間が超過して、迷惑をかけたので改善したい」と述べました。また質問を終えた心境を問われ、「ゆく川の流を変えて新しき海へと向かう友らとともに」という句を介助者が代読しました。

質問のたびに議事進行止める

参議院文教科学委員会では、船後議員が円滑に質問できるよう、対応を検討してきました。

これまでに、委員会室に介助者などが入ることや、パソコンなどの持ち込みが認められたほか、法案の賛否を船後氏の代わりに介助者が表明することや質問を秘書などが代読することも決まっています。

また、質問をし直す場合には、船後氏と秘書などが調整する時間を確保するため、委員長の判断で議事の進行を止めることも申し合わせています。

7日の委員会では、改めて質問する際に船後氏が瞳で示した文字盤の文字を秘書が読み上げて答弁を求めました。委員長も船後氏に割り当てられた時間が減らないよう質問のたびに、議事進行を止めていました。

このため船後氏の質問の持ち時間は25分でしたが、実際はおよそ45分になりました。

参議院 バリアフリー化を進める

参議院では、れいわ新選組の議員2人が円滑に活動できるよう、バリアフリー化が進められています。

8月1日の初登院の際には、国会議事堂の中央玄関に、登院したことを示すボードまで車いすで行けるよう、スロープが設置されました。本会議場では、大型の車いすに乗ったまま出席できるよう、出入り口近くの席が改修されました。いすが取り外され、足元の段差をなくし、医療機器などを使う際のコンセントも取り付けられました。2人が所属する特別委員会の部屋にも、車いすで出席できるスペースが設けられました。

2人を介助する人は本会議場や委員会室に入れることになり、採決では、代わりに手を挙げたり、ボタンを押したりすることになります。

一方、議員活動中も2人が公費による介護サービスを受けられるよう、当面費用は参議院が負担することになりました。

参議院は、移動手段として、車いすのまま乗り降りできる福祉車両の導入も決めていて、年明け以降に運用が始まる見通しです。今年度中には、2人の控え室がある参議院本館の3階に、多目的トイレも設けられます。

難病のALS患者の船後靖彦議員は、将来的には、本人に代わって意思表示できる「分身ロボット」の導入も希望していて、今後、与野党間で協議が行われる見通しです。

自民 赤池氏「船後氏の要望も聞きながら協議した」

参議院文教科学委員会の与党側の筆頭理事を務める自民党の赤池誠章氏は「憲政史上初めてのことで、船後議員は十分事前の準備をして質問していたので、まずはよかった。今回は速記を止めたが、諸外国の事例を見ると、質問時間の1点何倍という時間の中で、すべての質疑をしてもらう方式もあるので、船後議員の要望も聞きながら、与野党で協議していきたい」と述べました。

菅官房長官「後押ししていきたい」

菅官房長官は7日午後の記者会見で「障害や難病のある方々が、仕事でも地域でもその個性を発揮して、生き生きと活躍できる令和の時代を作り上げるため、国政の場でともに力を合わせていきたい」と述べました。そのうえで「バリアフリー法に基づく建物のバリアフリー化や、障害者雇用促進法に基づく障害者雇用の推進の取り組みをしっかりと後押ししていきたい」と述べました。

毎日新聞 2019年11月6日 東京朝刊

橋本紗貴さん＝盲ろう、四肢障害で教員採用試験に合格



盲ろう、四肢障害で教員採用試験に合格した橋本紗貴さん＝成田有佳撮影

橋本紗貴（はしもと・さき）さん（23）

右目は見えず、左目は弱視と視野狭さく。難聴。手足に障害がある。いくつもの障害を抱えながら、熊本県教育委員会の今年の教員採用試験で特別支援学校（学級）の校種に合格し、来年度から教壇に立つ。

突然、病に襲われたのは中学2年の5月。体育大会で倒れ、神経系の難病、ギランバレー症候群と診断された。治療薬にアレルギー反応を起こし、視覚、聴覚、四肢に障害が残った。教員を志す原動力は障害者への無理解だ。高校受験の時、何校にも断られた。入学した高校では、文字を拡大できるタブレットを持ち込みたいと相談したら教員から「特別扱いはしない」と心ない言葉を受けた。「生徒に公平に接する先生になる」と誓った。

教員採用試験では、試験の問題文は見えやすい字体に変更し、解答はパソコンを使うなど配慮を受けた。面接では子どもとの接し方や教員同士の連携など障害と関係のない質問をしてくれたことに「一人

の受験生として見られている」と手応えを感じた。

授業をする時は、点字、触手話（しょくしゅわ）のほか、パソコン、タブレット、補聴器など「私の生き

る力」と語る支援機器を使いこなすつもりだ。支援や配慮で障害のある子どものできることは広がるはず。自身の経験からそう信じている。「何もできないのではなく、どうしたらできるようになるのかを一緒に考え、子どもの『できる』を引き出したい」〈文と写真・成田有佳〉

■人物略歴

橋本紗貴（はしもと・さき）さん

大分県生まれ。九州ルーテル学院大卒。卒業旅行は同級生と東京ディズニーランドへ初めて行った。

2020年度「全国頸髄損傷者連絡会・総会 岐阜大会」のご案内

■大会テーマ：繋ぐ（つなぐ）～令和の時代へ～

■開催日時：2020年 5月23日（土）・24日（日）

■会場：じゅうろくプラザ 大会議室（JR岐阜駅隣接） 岐阜県岐阜市橋本町1丁目10-11

■内容

5月23日（土）

- ・基調講演
- ・全国頸髄損傷連絡会 総会
- ・交流会

5月24日（日）

- ・岐阜公園・長良川原町界限散策
- ・女性会員の集まり

■宿泊場所：ダイワロイネットホテル岐阜（前泊 泊まり可能） ・ 岐阜キャッスルイン

2020年度の「全国頸髄損傷者連絡会・総会」は、岐阜県岐阜市において開催します。岐阜での開催は3回目となり、令和になって最初の大会でもあります。

今回の基調講演第1部では、頸髄損傷連絡会・岐阜の相談役で、NPO法人バーチャルメディア工房 ぎふ 理事長の上村数洋氏を講師としてお迎えし、頸髄損傷連絡会・岐阜、そして障害者の在宅就労の場であるバーチャルメディア工房の創設に尽力し、平成の時代を生き抜いた貴重な経験話をお聞きし、「新たな令和の時代に向けて私たちは、どんなことを考え、何を大切にしてお過ごししたら良いのか」など、自分を振り返る場を持ちたいと考えます。

そして第2部では、3年前からバーチャルメディア工房（頸髄損傷者連絡会・岐阜のメンバーが中心となり）が行っている、観光バリアフリー「ふらっと旅ぎふ」の活動を紹介したいと思います。

また交流会では、機関誌編集長の菊池敏明氏から、「昭和49年5月1日に、故 三沢氏ら5名で発足した全国頸髄損傷者連絡会が、昭和から平成の時代を駆け抜けて今日迄に至る歩み」を語ってもらいます。そして全国から集まった会員が、美味しい物を食べ、十分談笑できるそんな交流会を持ちたいと思います。

そして大会2日目には、岐阜市歴史博物館の中に設置することになった「麒麟がくる」（令和2年放送）の大河ドラマ館や加藤栄三・東一記念美術館や岐阜大仏などの見学、そして古い町並みの残る長良川原町界限巡り、（また大会前日の晩には、長良川鵜飼の車いす体験）など、岐阜のバリアフリー観光を楽しんでもらうことを考えています。



全国頸髓損傷者連絡会 & 関係団体年間予定

(2019年12月～2020年11月)

全国頸損連絡会事務局

[2019年]

- 12月17～18日(火～水) 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会 2019
大阪マーチャンダイズマート Aホール
- 12月15日(日) 障大連セミナー

[2020年]

- 1月14～15日(火～水) 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会 2019
福岡国際会議場
- 1月17～18日(金～土) ノーリフトケア 2020 国際シンポジウム
医療介護における労働安全衛生マネジメント
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
- 2月12～13日(水～木) 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会 2019
TOC 有明 4F コンベンションホール
- 2月23日(日) 全国頸髓損傷者連絡会 春の代表者会議
じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)
- 2月29日(日) 星ヶ丘ピアサポート(大阪頸損連絡会)
- 4月16～18日(木～土) 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展 バリアフリー2020
インテックス大阪
- 5月 徳島頸損連絡会春の行事
- 5月23～24日(土～日) 全国頸髓損傷者連絡会・総会 岐阜大会
じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)
- 9月 全国頸髓損傷者連絡会 秋の代表者会議
- 10月 徳島頸損連絡会秋の行事
- 10月 国立リハセンター並木祭・ブース出展(埼玉県所沢市)
- 10月 神奈川&東京交流会(神奈川県横浜市)
- 10月 4都県合同交流会(福島県郡山市)
- 10月21～23日(水～金) 第47回国際福祉機器展(H.C.R. 2020) 東京ビッグサイト
- 10月24～26日(土～月) 第35回リハ工学カンファレンス in 北九州
AIM(アジアインポートマート)
- 11月8日(日) 四国頸損の集い 愛媛県四国中央市

※予定日時・場所は変更になる場合がありますのでご了承ください。

全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月(年3回)

お問い合わせは該当各支部窓口又は下記全国事務局まで。

全国頸損連絡会事務局

住所：〒6691546兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1フローラ88305B

特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL:079-555-6022 Email:jaqoffice7@gmail.com

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2019年12月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内
TEL 079-555-6022 e-mail : jaqoffice7@gmail.com <http://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会
※ 各支部、地区窓口につながつけない場合は本部にお問い合わせ下さい。

福島地区窓口 「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前 146-1 (相山方)
TEL 080-1656-1727 e-mail : hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)
TEL&FAX 028-623-0825 e-mail : keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205
TEL 090-8567-5150 e-mail : tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksen/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台 696-1 ライム 106 号室 (星野方)
TEL&FAX 042-777-5736 e-mail : h-futosi@wa2.so-net.ne.jp <http://www.k-sonet.jp/>

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡 1-3-27 NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付
TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail : matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F A J U 自立生活情報センター内
TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail : kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野 4-1-7 ソフトピアジャパン 702 バーチャルメディア工房内
TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail : kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟 313 村田方
TEL 090-8886-9377 e-mail : keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町 3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターある内
TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail : okeison@yahoo.co.jp <http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内
TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-Mail : hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

768-0104 香川県三豊市山本町神田 1223 (長谷川方) TEL 0875-63-3281 e-Mail : tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2 (山下方) TEL 0896-25-1290 e-mail : ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻 28 番地 (江川方) TEL 0884-21-1604 e-mail : awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0942 大分県別府市千代町 13-14 ユニバーサルマンション 2 階 NPO 法人自立支援センターおおい内
TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail : kkr@jp700.com

編集部のページ

新執行部発足と共に、本部事務局連絡先も変更となりました。

連絡先

全国頸髄損傷者連絡会新事務局

住所：〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B

特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL：079-555-6022

E-mail：jaqoffice@gmail.com

※

お電話の場合は平日の10時～17時をお願いします。

●全国頸損連絡会振込先

ゆうちょ銀行 口座No.00110-0-62671 全国頸髄損傷者連絡会

振替用紙以外で送金の場合 ○一九（ゼロイチキュウ）店（019） 当座 0062671

セ`ンコクケイス`イソ`ンショウシャレンラクカイ

[当会活動支援の寄付金もお願いしています]

●編集部連絡先

住所：〒189-0023 東京都東村山市美住町1-4-15-1-105 菊地敏明

TEL：080-6578-8019

E-mail：narimasu@major.ocn.ne.jp

機関誌広告募集

当機関誌は、全国の頸損会員（500名弱）及び関係者に講読され、好評を得ています。

内容をご覧いただいたうえで、広告掲載をご検討ください。

是非皆様のお知り合いにもご紹介ください。

[広告掲載要綱]

料金1ページ・2万円。半ページ・1万円。

1年以上継続契約の場合は半額割引。発行は年3回（4月・8月・12月）です。

問い合わせ、申し込みは編集部・菊地までお願いします。

編集後記

10月に行われた、他県の方々との交流会で近況を話し合ったときに、秋の台風から続いた一連の災害のすごさと切実さをじかに感じました。

それぞれが体験し、見たことの大変さにその場の皆が聞き入っていました。

地球規模の気象異変の影響でしょうか、何十年に一度、観測史上初などという言葉が、毎年のように聞かれるようになっていきます。

このような状況に慣らされていくことなく、その中でもなにをしなければいけないかを、私たち相互のネットワークも駆使して情報交換を行い、何度でも問い直すことが必要なのだ思われます。

K. T

二〇一九年十二月七日発行
SSKA 頸損増刊通巻第一〇一三号（毎月六回一・六の日発行）
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

発行人
編集人

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷三丁目十七
ヴェルドウーラ祖師谷一〇二号室
全国頸髄損傷者連絡会 菊地敏明
東京都東村山市美住町
一―四―十五―一―一〇五

全国頸髄損傷者連絡会

会長 鴨 治 慎 吾
〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1
フローラ88 305B
特定非営利活動法人ぼしぶる内
TEL 079-555-6022
Mail jaqoffice7@gmail.com

頒価二五〇円